

インターネットユーザおよびインターネット調査モニターの性格的特性の検討

2004年7月14日
出口慎二(立教大学)

目次

1. 一般的性格を見るための項目の選択	1
2. 一般的性格による比較の方法	14
3. インターネットの利用程度の異なる群間での「新性格検査」の尺度得点の比較	19
4. インターネット調査に対する協力意向の異なる群間での「新性格検査」の尺度得点の比較	30
5. インターネット調査に対する協力意向の異なる群間での「新性格検査」の尺度得点の比較 [インターネット利用程度別]	41
6. まとめ	52
7. 文献	54

1. 一般的性格を見るための項目の選択

ここでは、「学生の生活や意識に関するアンケート」(以下、「本調査」)のうちの、一般的性格に関する設問である問12に注目して、これが、インターネット調査への協力意向など、いくつかの要因によって分けられた群間でどのように異なるか、同じであるかを見ることとする。なお、本調査の調査票並びに調査概要、基本的な集計結果とその概観については、「学生の生活や意識に関するアンケート」報告書 学科・学年別集計結果 (<http://www.rikkyo.ne.jp/lim/deguchi/o03010.xls>)を参照のこと。

本調査における一般的性格の設問は、12-1から12-39まで、39の質問項目からなる(図表1)。これは、柳井晴夫・柏木繁男・国生理枝子(1987)の「新性格検査」から選び出した質問項目である。

この「新性格検査」は、それぞれ10の質問項目により測定される13の尺度を持つ。従って、計130の質問項目から成っている。

このもとの130の質問項目から、本調査の39項目を選んだ手順は以下のとおり。

13の尺度のうち、虚構性尺度を除く12尺度については、柳井・柏木・国生(1987)における、120項目、12因子の因子分析の結果(因子パターン行列)から、各因子ごとに、それぞれに対する負荷の高い順に3項目ずつ、計36項目を選び出した。なお、柳井・柏木・国生(1987)では、虚構性尺度の10項目も含んだ、130項目についての因子分析結果は掲載がなかった。

13の尺度のうちの虚構性尺度については、柳井・国生(1987)における、13尺度ごとの、尺度別の主成分分析の結果から3項目を選んだ。この際、虚構性尺度の10項目における主成分分析の結果、第一主成分に対する負荷の高い順に3項目を選び出した。

こうして選び出した39項目と、もとの13尺度との対応は図表1のとおり。また、ここでは便宜上、この13の尺度に図表2のように番号を割り当て、この「尺度番号」を使って「尺度1」などと表記することにする。

本調査の項目	対応する尺度	尺度番号	本調査の項目	対応する尺度	尺度番号
q12_1.話し好き	社会的外向性	1	q12_21.目立ちたい	自己顕示性	7
q12_2.変わった	進取性	4	q12_22.嘘をつかない	虚構性	13
q12_3.軽蔑	虚構性	13	q12_23.コンクール	自己顕示性	7
q12_4.注目	自己顕示性	7	q12_24.相手を批判	攻撃性	8
q12_5.静かに	抑うつ性	12	q12_25.手紙	規律性	6
q12_6.広く付き合う	社会的外向性	1	q12_26.失礼な	攻撃性	8
q12_7.言い返す	攻撃性	8	q12_27.つまらない	劣等感	10
q12_8.気になる	神経質	11	q12_28.すぐ忘れる	神経質	11
q12_9.助ける	共感性	3	q12_29.先頭に立って	活動性	2
q12_10.発明	進取性	4	q12_30.粘り強く	持久性	5
q12_11.自分さえ	非協調性	9	q12_31.書棚	規律性	6
q12_12.積極的	活動性	2	q12_32.悪口	虚構性	13
q12_13.苦しみ	共感性	3	q12_33.間違っ	劣等感	10
q12_14.投げ出さず	持久性	5	q12_34.気さくに	社会的外向性	1
q12_15.規則正しく	規律性	6	q12_35.同情	共感性	3
q12_16.信用できない	非協調性	9	q12_36.アイデア	進取性	4
q12_17.自信	劣等感	10	q12_37.世の中の人	非協調性	9
q12_18.思い込む	抑うつ性	12	q12_38.くよくよ	神経質	11
q12_19.きびきび	活動性	2	q12_39.空想	抑うつ性	12
q12_20.一生懸命	持久性	5			

図表1.「新性格検査」(柳井・柏木・国生(1987))の調査項目と尺度間の対応のうち本調査で用いた39項目に関する表.
表中の「尺度番号」は、本報告で用いるための、各尺度に与える便宜上の番号を指す.

尺度番号	尺度名
1	社会的外向性
2	活動性
3	共感性
4	進取性
5	持久性
6	規律性
7	自己顕示性
8	攻撃性
9	非協調性
10	劣等感
11	神経質
12	抑うつ性
13	虚構性

図表2. 尺度番号と尺度名の対応.

ところで、このように本調査の39項目は、虚構性尺度の項目と他の尺度の項目で、それぞれ異なった基準により選び出されている。これは、もし、虚構性尺度が、他のいずれの尺度とも独立であれば影響はないが、実際のところは、虚構性尺度は、他のいくつかの尺度と相関をもっているようである(柳井・繁榊算男・前川眞一・市川雅教(1990), p.85, 表3.1)。

したがって、こうして選び出した虚構性尺度の3項目は、必ずしも他の36項目とあわせて使用したとき、もっとも良く他の尺度と独立に虚構性尺度の値を代表するとは期待できない。

このこととあわせ、本来は各尺度につきそれぞれ10項目で測定されるべきものを、本調査ではそれぞれの尺度について、3項目ずつしか聞いていない。このため、本調査の各項目から、そのまま機械的に13の尺度の得点を計算することは適切でない可能性がある。

ここで得られた実データが、図表1に示したような対応で、各項目が3つずつで1因子、したがって39項目で計13因子を成すかどうかを確認するためには、そうしたモデルを指定してSEMを実行するアプローチも考えられる。しかし、これらの因子は、斜交回転で得られたものであり、因子間に相関があるので、本調査のように、3項目ずつが1因子となり、39項目が13因子を成すようなモデルは、そもそも因子数の設定が多すぎるであろうことは容易に想像できる。

しかし、ここでは、得られたデータからあらたな尺度を作ることは目的ではない。

このため、まず、本調査にて得られたデータに対して、あらためて因子分析を行い、本来期待できる尺度を構成していそうな項目のみ選び出して使用することとしたい。これにあたって、ここでは、本調査の有効回収データ全882件のうち、問12の39項目いずれにも

欠損のない, 867ケースのデータを使用した.

まず始めに, 項目間相関係数行列により, 想定される尺度に含まれる3つの項目同士の相関が高いかどうかをチェックした.
この相関係数行列は図表3-1および図表3-2のとおり.

尺度番号	1	1	1	2	2	2	3	3	3	4	4	4	5	5	5	6	6	6	7	7	7
項目番号, 項目名	q12_1	q12_6	q12_34	q12_12	q12_19	q12_29	q12_9	q12_13	q12_35	q12_2	q12_10	q12_36	q12_14	q12_20	q12_30	q12_15	q12_25	q12_31	q12_4	q12_21	q12_23
1 q12_1. 話し好き	1.00	0.35	0.41	0.29	0.21	0.25	0.17	0.10	0.08	0.16	-0.04	0.09	0.07	0.12	0.11	0.03	0.05	-0.04	0.29	0.25	0.05
1 q12_6. 広く付き合う	0.35	1.00	0.54	0.34	0.16	0.26	0.20	0.13	0.14	0.13	0.00	0.04	0.04	0.05	0.13	0.02	0.05	0.07	0.25	0.27	0.11
1 q12_34. 気さくに	0.41	0.54	1.00	0.36	0.22	0.34	0.23	0.14	0.20	0.11	-0.02	0.05	0.07	0.11	0.17	0.08	0.05	0.00	0.18	0.22	0.07
2 q12_12. 積極的	0.29	0.34	0.36	1.00	0.33	0.38	0.27	0.18	0.07	0.24	0.12	0.18	0.27	0.32	0.32	0.14	0.09	0.07	0.22	0.24	0.12
2 q12_19. きびきび	0.21	0.16	0.22	0.33	1.00	0.44	0.08	0.08	-0.02	0.15	0.08	0.13	0.22	0.29	0.24	0.14	0.12	0.11	0.23	0.28	0.08
2 q12_29. 先頭に立って	0.25	0.26	0.34	0.38	0.44	1.00	0.22	0.14	0.05	0.20	0.09	0.20	0.19	0.19	0.20	0.08	0.07	0.04	0.32	0.34	0.13
3 q12_9. 助ける	0.17	0.20	0.23	0.27	0.08	0.22	1.00	0.25	0.41	0.17	0.14	0.13	0.19	0.20	0.22	0.09	0.03	0.01	0.16	0.14	0.13
3 q12_13. 苦しみ	0.10	0.13	0.14	0.18	0.08	0.14	0.25	1.00	0.29	0.14	0.09	0.11	0.18	0.15	0.17	0.11	0.08	0.03	0.13	0.12	0.08
3 q12_35. 同情	0.08	0.14	0.20	0.07	-0.02	0.05	0.41	0.29	1.00	0.06	0.02	0.05	0.07	0.05	0.08	0.06	0.03	-0.01	0.08	0.06	0.11
4 q12_2. 変わった	0.16	0.13	0.11	0.24	0.15	0.20	0.17	0.14	0.06	1.00	0.24	0.27	0.09	0.08	0.14	0.00	-0.03	-0.02	0.30	0.27	0.19
4 q12_10. 発明	-0.04	0.00	-0.02	0.12	0.08	0.09	0.14	0.09	0.02	0.24	1.00	0.48	0.08	0.05	0.09	0.04	0.05	0.04	0.15	0.18	0.26
4 q12_36. アイデア	0.09	0.04	0.05	0.18	0.13	0.20	0.13	0.11	0.05	0.27	0.48	1.00	0.06	0.07	0.09	-0.01	0.02	0.01	0.20	0.19	0.21
5 q12_14. 投げ出さず	0.07	0.04	0.07	0.27	0.22	0.19	0.19	0.18	0.07	0.09	0.08	0.06	1.00	0.50	0.47	0.26	0.17	0.12	0.04	0.03	0.05
5 q12_20. 一生懸命	0.12	0.05	0.11	0.32	0.29	0.19	0.20	0.15	0.05	0.08	0.05	0.07	0.50	1.00	0.53	0.19	0.14	0.10	0.06	0.03	0.04
5 q12_30. 粘り強く	0.11	0.13	0.17	0.32	0.24	0.20	0.22	0.17	0.08	0.14	0.09	0.09	0.47	0.53	1.00	0.18	0.14	0.14	0.08	0.07	0.08
6 q12_15. 規則正しく	0.03	0.02	0.08	0.14	0.14	0.08	0.09	0.11	0.06	0.00	0.04	-0.01	0.26	0.19	0.18	1.00	0.22	0.17	0.02	0.02	0.02
6 q12_25. 手紙	0.05	0.05	0.05	0.09	0.12	0.07	0.03	0.08	0.03	-0.03	0.05	0.02	0.17	0.14	0.14	0.22	1.00	0.34	-0.02	0.00	0.06
6 q12_31. 書棚	-0.04	0.07	0.00	0.07	0.11	0.04	0.01	0.03	-0.01	-0.02	0.04	0.01	0.12	0.10	0.14	0.17	0.34	1.00	-0.01	0.03	0.00
7 q12_4. 注目	0.29	0.25	0.18	0.22	0.23	0.32	0.16	0.13	0.08	0.30	0.15	0.20	0.04	0.06	0.08	0.02	-0.02	-0.01	1.00	0.59	0.26
7 q12_21. 目立ちたい	0.25	0.27	0.22	0.24	0.28	0.34	0.14	0.12	0.06	0.27	0.18	0.19	0.03	0.03	0.07	0.02	0.00	0.03	0.59	1.00	0.26
7 q12_23. コンクール	0.05	0.11	0.07	0.12	0.08	0.13	0.13	0.08	0.11	0.19	0.26	0.21	0.05	0.04	0.08	0.02	0.06	0.00	0.26	0.26	1.00
8 q12_7. 言い返す	0.23	0.13	0.18	0.16	0.22	0.23	0.00	0.03	0.00	0.15	0.03	0.10	0.01	0.03	0.02	-0.08	0.02	0.03	0.20	0.21	0.02
8 q12_24. 相手を批判	0.05	0.02	0.01	0.01	0.11	0.11	-0.07	-0.03	-0.01	0.08	0.09	0.10	-0.05	-0.04	-0.05	-0.05	-0.08	0.02	0.14	0.22	0.11
8 q12_26. 失礼な	0.15	0.13	0.17	0.19	0.19	0.24	0.02	0.06	-0.01	0.14	0.04	0.08	0.05	0.08	0.09	0.00	0.08	0.10	0.16	0.18	0.09
9 q12_11. 自分さえ	-0.05	-0.04	-0.05	-0.11	0.08	-0.01	-0.25	-0.16	-0.16	-0.04	0.04	-0.01	-0.12	-0.17	-0.18	-0.05	-0.05	0.06	0.10	0.15	-0.02
9 q12_16. 信用できない	-0.14	-0.12	-0.13	-0.06	-0.06	-0.03	-0.12	-0.01	-0.04	-0.06	0.10	0.02	-0.01	-0.13	-0.07	0.02	0.01	0.07	0.03	0.02	0.00
9 q12_37. 世の中の人	-0.06	-0.05	-0.09	0.01	0.05	0.06	-0.10	-0.05	-0.07	0.00	0.06	0.00	0.00	-0.05	-0.03	0.02	0.01	0.08	0.05	0.05	-0.02
10 q12_17. 自信	0.14	0.19	0.25	0.31	0.29	0.32	0.10	0.07	-0.06	0.14	0.14	0.19	0.14	0.18	0.20	0.06	0.08	0.08	0.25	0.27	0.09
10 q12_27. つまらない	-0.23	-0.13	-0.25	-0.23	-0.16	-0.15	-0.07	-0.08	0.04	-0.08	-0.02	-0.08	-0.05	-0.13	-0.15	-0.08	-0.04	0.00	-0.11	-0.07	0.00
10 q12_33. 間違ってる	-0.09	-0.01	-0.07	-0.11	-0.10	-0.11	-0.04	-0.08	0.02	-0.08	-0.03	-0.05	-0.07	-0.12	-0.09	-0.02	-0.02	0.00	-0.06	-0.07	0.03
11 q12_8. 気になる	0.00	-0.05	-0.12	-0.02	-0.06	-0.04	0.04	0.02	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01	-0.02	-0.01	0.04	0.04	0.10	0.09	0.09	0.04
11 q12_28. すく忘れる	0.07	0.14	0.23	0.10	0.06	0.15	0.03	-0.05	0.01	0.03	0.00	0.02	-0.03	0.03	0.08	0.00	-0.01	-0.01	0.01	0.09	-0.01
11 q12_38. くよくよ	-0.11	-0.11	-0.17	-0.13	-0.09	-0.09	-0.05	0.00	0.10	-0.12	0.00	-0.01	-0.04	-0.11	-0.11	-0.04	-0.03	-0.03	0.01	0.00	0.01
12 q12_5. 静かに	-0.33	-0.23	-0.26	-0.25	-0.15	-0.20	-0.10	-0.01	-0.04	-0.14	0.06	0.03	-0.03	-0.08	-0.04	-0.01	0.04	0.08	-0.24	-0.22	-0.03
12 q12_18. 思い込む	-0.05	-0.05	-0.13	-0.07	-0.08	-0.03	0.00	0.02	0.00	-0.02	0.05	0.06	-0.04	-0.05	-0.05	0.01	0.00	0.02	-0.04	0.02	0.08
12 q12_39. 空想	0.02	-0.07	-0.06	-0.05	-0.06	-0.02	0.00	0.02	0.05	0.03	0.14	0.14	-0.04	-0.06	-0.03	-0.05	-0.01	0.00	0.02	0.05	0.02
13 q12_3. 軽蔑	0.07	0.14	0.15	0.11	0.14	0.14	0.16	0.11	0.12	0.04	0.07	0.03	0.10	0.06	0.02	0.08	0.07	0.05	0.10	0.15	0.03
13 q12_22. 嘘をつかない	0.03	0.10	0.11	0.17	0.12	0.10	0.09	0.08	0.04	0.02	0.06	0.06	0.09	0.08	0.13	0.18	0.11	0.11	0.07	0.08	0.05
13 q12_32. 悪口	0.05	-0.03	0.01	-0.06	0.03	0.02	-0.16	-0.03	-0.03	0.00	-0.01	-0.04	-0.08	-0.07	-0.07	-0.09	-0.11	-0.02	0.08	0.04	0.01

図表3-1. 本調査における39項目間の相関係数行列(1): 尺度1~尺度7.

網のかかった係数は, その係数の値の絶対値が0.30以上であることを示す. 文字色の薄い係数は, その係数の値の絶対値が0.20以下であることを示す.

尺度番号	8	8	8	9	9	9	10	10	10	11	11	11	12	12	12	13	13	13
項目番号, 項目名	q12_7	q12_24	q12_26	q12_16	q12_11	q12_37	q12_27	q12_17	q12_33	q12_8	q12_28	q12_38	q12_5	q12_18	q12_39	q12_3	q12_22	q12_32
1 q12_1. 話し好き	0.23	0.05	0.15	-0.14	-0.05	-0.06	-0.23	0.14	-0.09	0.00	0.07	-0.11	-0.33	-0.05	0.02	0.07	0.03	0.05
1 q12_6. 広く付き合う	0.13	0.02	0.13	-0.12	-0.04	-0.05	-0.13	0.19	-0.01	-0.05	0.14	-0.11	-0.23	-0.05	-0.07	0.14	0.10	-0.03
1 q12_34. 気さくに	0.18	0.01	0.17	-0.13	-0.05	-0.09	-0.25	0.25	-0.07	-0.12	0.23	-0.17	-0.26	-0.13	-0.06	0.15	0.11	0.01
2 q12_12. 積極的	0.16	0.01	0.19	-0.06	-0.11	0.01	-0.23	0.31	-0.11	-0.02	0.10	-0.13	-0.25	-0.07	-0.05	0.11	0.17	-0.06
2 q12_19. きびきび	0.22	0.11	0.19	-0.06	0.08	0.05	-0.16	0.29	-0.10	-0.06	0.06	-0.09	-0.15	-0.08	-0.06	0.14	0.12	0.03
2 q12_29. 先頭に立って	0.23	0.11	0.24	-0.03	-0.01	0.06	-0.15	0.32	-0.11	-0.04	0.15	-0.09	-0.20	-0.03	-0.02	0.14	0.10	0.02
3 q12_9. 助ける	0.00	-0.07	0.02	-0.12	-0.25	-0.10	-0.07	0.10	-0.04	0.04	0.03	-0.05	-0.10	0.00	0.00	0.16	0.09	-0.16
3 q12_13. 苦しみ	0.03	-0.03	0.06	-0.01	-0.16	-0.05	-0.08	0.07	-0.08	0.02	-0.05	0.00	-0.01	0.02	0.02	0.11	0.08	-0.03
3 q12_35. 同情	0.00	-0.01	-0.01	-0.04	-0.16	-0.07	0.04	-0.06	0.02	0.01	0.01	0.10	-0.04	0.00	0.05	0.12	0.04	-0.03
4 q12_2. 変わった	0.15	0.08	0.14	-0.06	-0.04	0.00	-0.08	0.14	-0.08	0.00	0.03	-0.12	-0.14	-0.02	0.03	0.04	0.02	0.00
4 q12_10. 発明	0.03	0.09	0.04	0.10	0.04	0.06	-0.02	0.14	-0.03	0.00	0.00	0.00	0.06	0.05	0.14	0.07	0.06	-0.01
4 q12_36. アイデア	0.10	0.10	0.08	0.02	-0.01	0.00	-0.08	0.19	-0.05	0.00	0.02	-0.01	0.03	0.06	0.14	0.03	0.06	-0.04
5 q12_14. 投げ出さず	0.01	-0.05	0.05	-0.01	-0.12	0.00	-0.05	0.14	-0.07	0.01	-0.03	-0.04	-0.03	-0.04	-0.04	0.10	0.09	-0.08
5 q12_20. 一生懸命	0.03	-0.04	0.08	-0.13	-0.17	-0.05	-0.13	0.18	-0.12	-0.02	0.03	-0.11	-0.08	-0.05	-0.06	0.06	0.08	-0.07
5 q12_30. 粘り強く	0.02	-0.05	0.09	-0.07	-0.18	-0.03	-0.15	0.20	-0.09	-0.01	0.08	-0.11	-0.04	-0.05	-0.03	0.02	0.13	-0.07
6 q12_15. 規則正しく	-0.08	-0.05	0.00	0.02	-0.05	0.02	-0.08	0.06	-0.02	0.04	0.00	-0.04	-0.01	0.01	-0.05	0.08	0.18	-0.09
6 q12_25. 手紙	0.02	-0.08	0.08	0.01	-0.05	0.01	-0.04	0.08	-0.02	0.04	-0.01	-0.03	0.04	0.00	-0.01	0.07	0.11	-0.11
6 q12_31. 書棚	0.03	0.02	0.10	0.07	0.06	0.08	0.00	0.08	0.00	0.10	-0.01	-0.03	0.08	0.02	0.00	0.05	0.11	-0.02
7 q12_4. 注目	0.20	0.14	0.16	0.03	0.10	0.05	-0.11	0.25	-0.06	0.09	0.01	0.01	-0.24	-0.04	0.02	0.10	0.07	0.08
7 q12_21. 目立ちたい	0.21	0.22	0.18	0.02	0.15	0.05	-0.07	0.27	-0.07	0.09	0.09	0.00	-0.22	0.02	0.05	0.15	0.08	0.04
7 q12_23. コンクール	0.02	0.11	0.09	0.00	-0.02	-0.02	0.00	0.09	0.03	0.04	-0.01	0.01	-0.03	0.08	0.02	0.03	0.05	0.01
8 q12_7. 言い返す	1.00	0.34	0.33	0.07	0.18	0.08	-0.05	0.14	-0.07	0.07	0.02	0.01	-0.09	-0.03	0.03	-0.06	0.01	0.19
8 q12_24. 相手を批判	0.34	1.00	0.23	0.14	0.26	0.13	0.08	0.09	-0.02	0.14	-0.01	0.08	0.01	0.07	0.08	-0.11	0.00	0.29
8 q12_26. 失礼な	0.33	0.23	1.00	0.00	0.04	0.08	-0.12	0.19	-0.11	0.03	0.06	-0.12	-0.06	-0.01	-0.02	-0.06	0.01	0.11
9 q12_11. 自分さえ	0.18	0.26	0.04	0.21	1.00	0.26	0.12	0.06	0.08	0.09	-0.02	0.08	0.09	0.08	0.12	0.02	0.06	0.19
9 q12_16. 信用できない	0.07	0.14	0.00	1.00	0.21	0.24	0.16	-0.05	0.10	0.11	-0.11	0.12	0.11	0.13	0.12	-0.01	0.03	0.07
9 q12_37. 世の中の人	0.08	0.13	0.08	0.24	0.26	1.00	0.17	0.01	0.06	0.05	-0.03	0.10	0.15	0.10	0.09	0.02	0.06	0.01
10 q12_17. 自信	0.14	0.09	0.19	-0.05	0.06	0.01	-0.36	1.00	-0.24	-0.20	0.24	-0.27	-0.11	-0.08	-0.05	0.06	0.12	-0.03
10 q12_27. つまらない	-0.05	0.08	-0.12	0.16	0.12	0.17	1.00	-0.36	0.36	0.13	-0.10	0.29	0.25	0.15	0.13	-0.03	-0.04	0.09
10 q12_33. 間違っ	-0.07	-0.02	-0.11	0.10	0.08	0.06	0.36	-0.24	1.00	0.11	-0.10	0.22	0.17	0.16	0.11	-0.03	-0.04	0.11
11 q12_8. 気になる	0.07	0.14	0.03	0.11	0.09	0.05	0.13	-0.20	0.11	1.00	-0.38	0.42	0.08	0.20	0.21	-0.07	-0.07	0.15
11 q12_28. すぐ忘れる	0.02	-0.01	0.06	-0.11	-0.02	-0.03	-0.10	0.24	-0.10	-0.38	1.00	-0.51	-0.10	-0.15	-0.08	0.06	0.11	-0.13
11 q12_38. くよくよ	0.01	0.08	-0.12	0.12	0.08	0.10	0.29	-0.27	0.22	0.42	-0.51	1.00	0.15	0.19	0.21	-0.03	-0.08	0.13
12 q12_5. 静かに	-0.09	0.01	-0.06	0.11	0.09	0.15	0.25	-0.11	0.17	0.08	-0.10	0.15	1.00	0.17	0.18	-0.04	-0.03	0.01
12 q12_18. 思い込む	-0.03	0.07	-0.01	0.13	0.08	0.10	0.15	-0.08	0.16	0.20	-0.15	0.19	0.17	1.00	0.33	0.00	-0.03	0.01
12 q12_39. 空想	0.03	0.08	-0.02	0.12	0.12	0.09	0.13	-0.05	0.11	0.21	-0.08	0.21	0.18	0.33	1.00	-0.03	-0.05	0.07
13 q12_3. 軽蔑	-0.06	-0.11	-0.06	-0.01	0.02	0.02	-0.03	0.06	-0.03	-0.07	0.06	-0.03	-0.04	0.00	-0.03	1.00	0.35	-0.28
13 q12_22. 嘘をつかない	0.01	0.00	0.01	0.03	0.06	0.06	-0.04	0.12	-0.04	-0.07	0.11	-0.08	-0.03	-0.03	-0.05	0.35	1.00	-0.21
13 q12_32. 悪口	0.19	0.29	0.11	0.07	0.19	0.01	0.09	-0.03	0.11	0.15	-0.13	0.13	0.01	0.01	0.07	-0.28	-0.21	1.00

図表3-2. 本調査における39項目間の相関係数行列(2): 尺度8~ 尺度13.

網のかかった係数は, その係数の値の絶対値が0.30以上であることを示す. 文字色の薄い係数は, その係数の値の絶対値が0.20以下であることを示す.

この際、13の尺度それぞれについて、含まれる3項目間の相関係数の絶対値に、0.2以下の値があるかどうかを基準とした。この結果、尺度6(規律性)と尺度12(抑うつ性)において、この基準に当てはまる低い相関が見られた。このため、尺度6(規律性)と尺度12(抑うつ性)に含まれるそれぞれ3項目ずつ、計6項目を削除した。なお、ここで削除された6つの項目は図表4のとおり。

尺度番号	本調査項目
6	q12_15. 規則正しく
6	q12_25. 手紙
6	q12_31. 書棚
12	q12_5. 静かに
12	q12_18. 思い込む
12	q12_39. 空想

図表4. 削除された項目(1)

次いで、残りの11尺度33項目について、因子分析を行い、ここで使用する尺度の絞込みを行なった。

ところで、柳井・柏木・国生(1987)では、「新性格検査」の作成にあたって、SASの斜交プロマックス回転(予備回転:エカマックス,あるいはパーシマックス.目標パタン算出の累乗数:3)により項目の絞込みを行なっている。初期解についての記述はない。

ここでは、SPSS(Base)の斜交因子分析を使用した。この際、初期解は最尤法、回転法にはプロマックス(予備回転は不明)、目標パタン算出の累乗数には3、因子数は11を指定した(SPSSのダイアログ上では「カッパ」と称されている)。この結果得られた因子パタン行列は図表5のとおり。尺度の2および4以外は、特に期待される因子パタンに反しない。

尺度番号	項目番号, 項目名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
5	q12_20. 一生懸命	0.775	-0.049	-0.002	-0.011	-0.060	0.009	-0.023	-0.014	0.007	-0.021	-0.016
5	q12_30. 粘り強く	0.734	0.068	-0.027	0.016	0.018	0.010	-0.012	0.006	-0.054	-0.057	-0.058
5	q12_14. 投げ出さず	0.690	-0.051	0.054	-0.042	-0.016	0.016	0.020	0.055	-0.021	0.047	0.032
1	q12_34. 気さくに	-0.013	0.815	-0.062	-0.119	0.003	0.052	0.015	-0.007	0.001	-0.010	0.042
1	q12_6. 広く付き合う	-0.017	0.698	-0.024	0.097	-0.002	-0.032	-0.043	0.110	-0.016	0.045	-0.054
1	q12_1. 話し好き	-0.009	0.420	0.067	0.136	-0.073	-0.032	-0.139	-0.081	0.173	-0.005	-0.037
2	q12_12. 積極的	0.244	0.281	0.036	0.001	0.095	-0.052	-0.081	-0.037	0.091	0.074	0.155
11	q12_28. すぐ忘れる	-0.025	0.071	-0.738	0.039	-0.021	0.040	0.031	0.118	0.004	-0.003	0.030
11	q12_38. くよくよ	-0.045	0.027	0.692	-0.027	0.011	0.061	0.111	0.120	-0.096	-0.020	0.103
11	q12_8. 気になる	0.060	0.005	0.550	0.118	-0.022	-0.032	0.019	0.027	0.093	-0.025	-0.076
7	q12_4. 注目	-0.015	-0.002	0.056	0.784	-0.010	0.017	0.010	-0.052	-0.055	-0.020	0.020
7	q12_21. 目立ちたい	-0.031	0.037	-0.015	0.726	0.016	-0.007	0.085	0.024	-0.002	0.046	0.037
7	q12_23. コンクール	0.023	0.024	-0.003	0.295	0.269	0.049	-0.024	0.075	-0.066	-0.065	-0.030
4	q12_2. 変わった	0.012	-0.026	-0.054	0.269	0.253	-0.015	-0.174	0.027	0.175	-0.001	-0.032
4	q12_10. 発明	0.011	-0.003	-0.002	-0.012	0.809	-0.024	0.116	-0.001	-0.057	0.007	-0.075
4	q12_36. アイデア	-0.073	-0.028	0.022	-0.001	0.610	0.008	-0.021	-0.046	0.056	-0.008	0.083
3	q12_35. 同情	-0.008	-0.024	-0.043	-0.005	-0.035	1.028	0.028	-0.030	-0.004	-0.020	-0.024
3	q12_9. 助ける	0.083	0.095	0.037	0.066	0.116	0.284	-0.280	0.059	0.011	0.111	0.064
3	q12_13. 苦しみ	0.101	0.015	0.089	0.044	0.066	0.231	-0.138	-0.046	0.065	0.083	0.011
9	q12_11. 自分さえ	-0.039	0.029	-0.001	0.079	-0.026	-0.042	0.648	-0.026	0.035	0.063	-0.056
9	q12_37. 世の中の人	0.035	-0.102	0.014	-0.024	0.005	-0.022	0.333	0.127	0.080	0.120	0.107
9	q12_16. 信用できない	0.003	-0.100	0.079	-0.031	0.090	0.018	0.325	0.068	0.043	0.063	-0.006
10	q12_27. つまらない	0.044	-0.083	-0.079	0.032	-0.011	-0.020	0.079	0.851	0.050	0.016	0.032
10	q12_33. 間違っ	0.008	0.174	0.064	-0.012	0.027	-0.029	0.089	0.442	-0.156	-0.091	0.006
10	q12_17. 自信	0.116	0.023	-0.203	0.124	0.095	-0.014	0.160	-0.325	-0.048	-0.033	0.177
8	q12_7. 言い返す	-0.053	0.093	0.047	-0.065	-0.021	0.007	0.128	-0.024	0.622	0.019	0.015
8	q12_26. 失礼な	0.007	0.016	-0.056	-0.019	-0.007	-0.012	0.001	-0.057	0.457	-0.039	0.068
8	q12_24. 相手を批判	-0.006	-0.027	0.005	0.037	0.066	0.060	0.313	0.033	0.418	-0.108	-0.043
13	q12_3. 軽蔑	-0.061	0.070	0.050	0.046	-0.032	0.039	0.104	-0.010	-0.067	0.646	0.029
13	q12_22. 嘘をつかない	0.080	0.048	-0.045	-0.034	-0.001	0.008	0.199	-0.017	0.061	0.532	-0.069
13	q12_32. 悪口	0.033	0.096	0.091	0.029	-0.012	0.033	0.191	0.040	0.109	-0.467	0.026
2	q12_29. 先頭に立って	-0.059	0.013	-0.017	0.031	-0.003	0.003	-0.062	0.044	0.028	-0.051	0.813
2	q12_19. きびきび	0.202	-0.008	0.005	0.042	-0.045	-0.023	0.132	-0.073	0.061	0.030	0.420

図表5. 33項目11因子の場合の因子パタン行列.

全39項目に関するケースワイズ削除後の867件のデータに対する斜交因子分析の結果. SPSS (Base) 使用.

適合度検定 (カイ二乗検定) の結果は $p=0.043$ (カイ二乗=257.363, $df=220$).

各種オプションの指定は, 初期解: 最尤法, 回転法: プロマックス, 目標パタン算出の累乗数: 3.

なお、尺度4については、「q12.2. 変わった」が、尺度7の各項目と同じ因子4への負荷がもっとも大きくなっているが、しかし、尺度4に含まれる他の2項目が大きな負荷を示す因子5に対する負荷も、ほぼ同様の高い値となっており、これについては、単純構造を阻害してはいるものの、必ずしも「q12.2. 変わった」が尺度4に対して高い負荷を示さない結果とはなっていない。このため、尺度4については、ここでは削除対象としない。

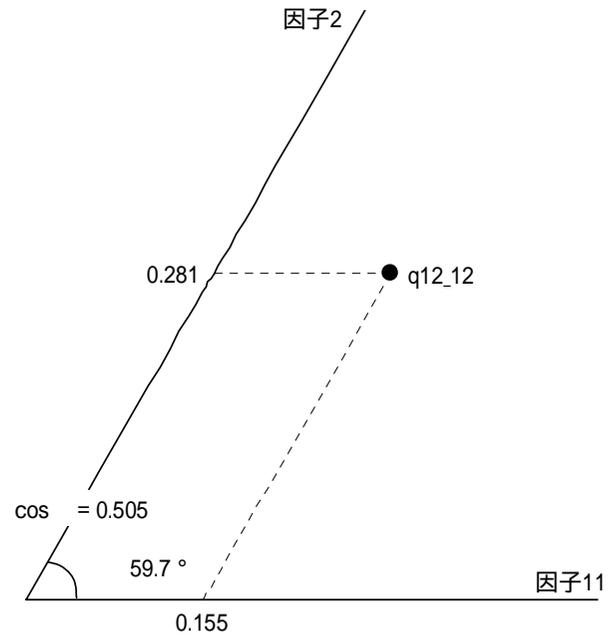
他方、尺度2については、「q12.12. 積極的」が、この尺度の他の2項目が高い負荷を示す因子11ではなく、尺度1の項目が高い負荷を示している因子2に対し高い負荷を示している点が好ましくない。この「q12.12. 積極的」の因子11への負荷をみると、これは相対的に必ずしも高い値とはなっていない。

ところで、ここで見ている因子負荷は、斜交回転後の因子パターンである。もし、因子2と因子11の因子間相関が極めて高ければ、因子11への負荷が小さいようでも、実際のところ、「q12.12. 積極的」は、因子2と同様、因子11にも十分近い可能性がある。

この点を確認するために、因子間相関を見ると、図表6のとおりで、因子2と因子11の因子間相関係数は、0.505、となっている。これを角度に直すと、因子2と因子11の成す角は、およそ59.7度ということになるが、この角度で因子2と因子11が交わる平面に、「q12.12. 積極的」を位置付けてみると、図表7のように図示できる。この図を見る限り、やはり、「q12.12. 積極的」は、因子11よりも、因子2に近いと判断して差し支えないと思われる。

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6	因子7	因子8	因子9	因子10	因子11
因子1	1.000										
因子2	0.249	1.000									
因子3	-0.108	-0.222	1.000								
因子4	0.176	0.418	-0.004	1.000							
因子5	0.247	0.089	-0.039	0.346	1.000						
因子6	0.113	0.229	0.100	0.124	0.131	1.000					
因子7	-0.273	-0.138	0.112	0.087	-0.044	-0.227	1.000				
因子8	-0.266	-0.329	0.366	-0.194	-0.111	0.112	0.167	1.000			
因子9	0.202	0.318	-0.018	0.449	0.192	0.037	0.173	-0.196	1.000		
因子10	0.254	0.203	-0.178	0.140	0.180	0.164	-0.189	-0.101	-0.150	1.000	
因子11	0.449	0.505	-0.176	0.489	0.286	0.092	-0.007	-0.311	0.427	0.288	1.000

図表6. 33項目11因子の場合の因子分析結果(プロマックス回転後)における因子間相関係数行列。
全39項目に関するケースワイズ削除後の867件のデータに対する斜交因子分析の結果。SPSS(Base)使用。
各種オプションの指定は、初期解:最尤法,回転法:プロマックス,目標パターン算出の累乗数:3。
因子パターン行列については、図表5参照。



図表7. 「因子2」×「因子11」の平面における「q12_12. 積極的」の位置の図示.

以上の検討を踏まえ、この因子分析の結果からは、あたりに尺度2の3項目(図表8)を削除対象とする.

尺度番号	本調査項目
2	q12_12. 積極的
2	q12_19. きびきび
2	q12_29. 先頭に立って

図表8. 削除された項目(2)

以上の手順を経て残った10尺度30項目に対して、因子数に10を指定、他は同様の方法により因子分析を行った。
 この結果のパターン行列は図表9のとおり。なお、適合度検定(カイ二乗検定)の結果、 $p=0.88$ となった(カイ二乗=206.159, $df=180$)。
 データ件数は867と決して少なくないこともあわせて考えると、このデータに10因子を仮定することを受容しても問題なさそうである。

尺度番号	項目番号, 項目名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5	q12_20. 一生懸命	0.744	0.002	-0.039	-0.014	-0.052	-0.004	-0.030	-0.019	0.028	-0.014
5	q12_30. 粘り強く	0.722	-0.021	0.061	0.010	0.014	0.005	0.001	-0.009	-0.056	-0.063
5	q12_14. 投げ出さず	0.699	0.059	-0.030	-0.037	-0.014	0.005	0.036	0.040	0.003	0.063
11	q12_28. すぐ忘れる	-0.021	-0.744	0.071	0.044	-0.025	0.043	0.039	0.108	0.003	-0.003
11	q12_38. くよくよ	-0.015	0.683	0.054	-0.006	0.015	0.054	0.118	0.116	-0.063	0.006
11	q12_8. 気になる	0.052	0.554	-0.015	0.105	-0.026	-0.026	0.027	0.023	0.069	-0.039
1	q12_34. 気さくに	0.014	-0.053	0.852	-0.116	0.022	0.030	0.003	-0.009	0.021	0.004
1	q12_6. 広く付き合う	-0.018	-0.021	0.634	0.110	-0.005	-0.029	-0.063	0.096	-0.011	0.042
1	q12_1. 話し好き	-0.015	0.070	0.389	0.142	-0.065	-0.037	-0.171	-0.073	0.182	-0.006
7	q12_4. 注目	-0.014	0.055	-0.008	0.803	-0.017	0.016	0.017	-0.052	-0.052	-0.021
7	q12_21. 目立ちたい	-0.029	-0.016	0.041	0.732	0.017	-0.010	0.085	0.022	0.009	0.047
7	q12_23. コンクール	0.013	0.000	0.016	0.293	0.264	0.052	-0.023	0.071	-0.079	-0.074
4	q12_2. 変わった	0.003	-0.054	-0.038	0.271	0.252	-0.012	-0.184	0.033	0.161	-0.014
4	q12_10. 発明	-0.007	0.004	-0.006	-0.030	0.806	-0.025	0.100	-0.001	-0.064	0.000
4	q12_36. アイデア	-0.047	0.018	-0.004	0.024	0.603	0.000	-0.030	-0.045	0.082	0.013
3	q12_35. 同情	-0.028	-0.045	-0.034	-0.012	-0.043	1.035	0.035	-0.027	-0.016	-0.029
3	q12_9. 助ける	0.108	0.037	0.107	0.085	0.123	0.284	-0.261	0.054	0.022	0.122
3	q12_13. 苦しみ	0.113	0.090	0.019	0.048	0.068	0.231	-0.126	-0.046	0.068	0.086
9	q12_11. 自分さえ	-0.067	0.001	0.010	0.069	-0.041	-0.047	0.618	-0.033	0.029	0.048
9	q12_16. 信用できない	0.016	0.079	-0.096	-0.030	0.073	0.027	0.363	0.045	0.017	0.053
9	q12_37. 世の中の人	0.068	0.006	-0.077	0.005	-0.002	-0.023	0.362	0.102	0.082	0.127
10	q12_27. つまらない	0.041	-0.079	-0.066	0.032	-0.005	-0.023	0.067	0.866	0.059	0.020
10	q12_33. 間違っ	0.001	0.069	0.165	-0.004	0.023	-0.025	0.084	0.424	-0.160	-0.091
10	q12_17. 自信	0.160	-0.216	0.060	0.170	0.090	-0.028	0.175	-0.331	-0.001	0.000
8	q12_7. 言い返す	-0.043	0.048	0.086	-0.065	-0.013	-0.002	0.095	-0.018	0.648	0.027
8	q12_26. 失礼な	0.036	-0.059	0.030	0.000	0.002	-0.018	0.001	-0.060	0.461	-0.031
8	q12_24. 相手を批判	-0.014	0.008	-0.039	0.024	0.060	0.059	0.298	0.028	0.408	-0.116
13	q12_3. 軽蔑	-0.048	0.055	0.085	0.046	-0.021	0.028	0.099	-0.010	-0.042	0.657
13	q12_22. 嘘をつかない	0.072	-0.045	0.028	-0.039	-0.007	0.009	0.200	-0.024	0.046	0.507
13	q12_32. 悪口	0.030	0.093	0.099	0.036	-0.014	0.031	0.182	0.033	0.105	-0.463

図表9. 30項目10因子の場合の因子パターン行列(1):最尤法の場合.
 全39項目に関するケースワイズ削除後の867件のデータに対する斜交因子分析の結果. SPSS(Base)使用.
 適合度検定(カイ二乗検定)の結果は $p=0.88$ (カイ二乗=206.159, $df=180$).
 各種オプションの指定は、初期解:最尤法,回転法:プロマックス,目標パターン算出の累乗数:3.

なお、最尤法では、共通性の推定に関してエラー(1.0より大きい1つまたは複数の共通性推定値が反復間に発生)が出ていた。

これは、そもそも互いに相関のある因子から選んだ、たった3項目ずつの項目が、それぞれで1つの因子を成すとするような想定(30項目に対して10因子を指定)にいささか無理があることによる(指定した因子数が多すぎる)と思われるが、データに対して多すぎる因子を想定すること自体は、本稿においては問題が無い(30項目を10因子に振り分けた時、想定どおりに項目が因子と対応するかだけに関心がある)。

ただし、計算されたパタン行列自体が不安定では困るので、確認のため、初期解に反復主因子法を指定した場合も計算してみた。この場合のパタン行列は図表10のとおり。この結果、エラーもなく、各項目と因子間の因子パタンについても、最尤法の場合と特に大勢が変わらないことが確認できた。

以上より、ここでは、本調査の問12の39項目のうち、図表9の10尺度30項目のみを用いて回答者の一般的性格を見ることとする。

なお、「q12.2.変わった」については、尺度7の各項目が大きい負荷を示す因子4に対する負荷がもっとも大きい。尺度4の他の2項目の負荷が大きい因子5に対しても、大きく変わらない負荷の大きさを示している。このため、以降において、「q12.2.変わった」については、尺度4(進取性)を測定する項目として扱うこととする。

尺度番号	項目番号, 項目名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5	q12_20. 一生懸命	0.739	0.010	-0.026	-0.015	-0.049	-0.046	-0.019	-0.015	0.036	-0.010
5	q12_30. 粘り強く	0.723	-0.023	0.064	0.009	0.015	0.000	0.006	0.009	-0.048	-0.055
5	q12_14. 投げ出さず	0.698	0.058	-0.031	-0.035	-0.014	0.048	0.020	0.034	0.001	0.057
11	q12_28. すぐ忘れる	-0.026	-0.746	0.060	0.042	-0.032	0.031	0.032	0.111	0.012	0.002
11	q12_38. くよくよ	-0.019	0.678	0.050	-0.008	0.015	0.120	0.052	0.111	-0.064	0.006
11	q12_8. 気になる	0.054	0.545	-0.017	0.109	-0.026	0.029	-0.006	0.035	0.073	-0.040
1	q12_34. 気さくに	0.014	-0.055	0.834	-0.115	0.017	0.007	0.057	-0.018	0.019	0.000
1	q12_6. 広く付き合う	-0.009	-0.022	0.633	0.112	0.000	-0.064	-0.021	0.103	-0.009	0.047
1	q12_1. 話し好き	-0.006	0.081	0.417	0.131	-0.041	-0.193	-0.062	-0.042	0.192	0.010
7	q12_4. 注目	-0.017	0.059	0.003	0.790	-0.015	0.011	0.014	-0.054	-0.050	-0.017
7	q12_21. 目立ちたい	-0.031	-0.016	0.032	0.742	0.007	0.076	-0.002	0.010	0.009	0.044
7	q12_23. コンクール	0.013	-0.009	0.012	0.291	0.256	-0.020	0.064	0.084	-0.074	-0.074
4	q12_2. 変わった	0.014	-0.050	-0.032	0.269	0.266	-0.186	-0.009	0.046	0.166	-0.002
4	q12_10. 発明	-0.006	0.008	-0.011	-0.026	0.785	0.102	-0.015	0.004	-0.063	0.001
4	q12_36. アイデア	-0.049	0.027	0.013	0.013	0.624	-0.040	-0.014	-0.033	0.085	0.024
9	q12_11. 自分さえ	-0.081	0.011	0.028	0.070	-0.042	0.568	-0.123	-0.014	0.039	0.046
9	q12_16. 信用できない	0.018	0.071	-0.117	-0.036	0.052	0.399	0.047	0.032	0.011	0.047
9	q12_37. 世の中の人	0.066	0.004	-0.081	0.001	-0.007	0.371	-0.040	0.096	0.092	0.134
3	q12_35. 同情	-0.063	-0.039	-0.018	-0.021	-0.063	0.030	0.864	-0.007	-0.009	-0.033
3	q12_9. 助ける	0.102	0.022	0.077	0.084	0.097	-0.207	0.384	0.029	0.011	0.106
3	q12_13. 苦しみ	0.107	0.074	-0.012	0.041	0.045	-0.060	0.328	-0.089	0.046	0.059
10	q12_27. つまらない	0.051	-0.079	-0.088	0.035	0.001	0.096	-0.005	0.804	0.055	0.024
10	q12_33. 間違っ	0.013	0.053	0.182	-0.003	0.040	0.076	-0.048	0.474	-0.151	-0.087
10	q12_17. 自信	0.148	-0.214	0.053	0.159	0.082	0.191	-0.007	-0.374	-0.023	-0.017
8	q12_7. 言い返す	-0.038	0.044	0.097	-0.073	0.000	0.093	-0.009	-0.010	0.661	0.032
8	q12_26. 失礼な	0.050	-0.062	0.026	0.012	0.004	0.027	0.002	-0.071	0.432	-0.041
8	q12_24. 相手を批判	-0.021	-0.001	-0.045	0.034	0.049	0.309	0.074	0.009	0.382	-0.140
13	q12_3. 軽蔑	-0.046	0.055	0.090	0.053	-0.023	0.105	0.041	-0.008	-0.038	0.641
13	q12_22. 嘘をつかない	0.068	-0.046	0.037	-0.035	-0.001	0.212	0.021	-0.023	0.041	0.490
13	q12_32. 悪口	0.021	0.089	0.092	0.039	-0.032	0.167	0.028	0.027	0.094	-0.480

図表10. 30項目10因子の場合の因子パタン行列(2): 反復主因子法の場合.
 全39項目に関するケースワイズ削除後の867件のデータに対する斜交因子分析の結果. SPSS(Base)使用.
 各種オプションの指定は, 初期解: 反復主因子法, 回転法: プロマックス, 目標パタン算出の累乗数: 3.

2. 一般的性格による比較の方法

「1. 一般的性格を見るための項目の選択」に示した手順により、一般的性格に関する本調査の39項目から、図表11のような10尺度30項目を選び出した。以降、得られたデータについて、いくつかの要因で群分けを行い、この群間について、一般的性格による比較していきたい。これにあたり、実際にこの30項目の回答から10尺度についての得点を算出、その分布を確認する。

本調査の項目	逆転項目	対応する尺度	尺度番号	本調査の項目	逆転項目	対応する尺度	尺度番号
q12_1.話し好き		社会的外向性	1	q12_7.言い返す		攻撃性	8
q12_6.広く付き合う		社会的外向性	1	q12_24.相手を批判		攻撃性	8
q12_34.気さくに		社会的外向性	1	q12_26.失礼な		攻撃性	8
q12_9.助ける		共感性	3	q12_11.自分さえ		非協調性	9
q12_13.苦しみ		共感性	3	q12_16.信用できない		非協調性	9
q12_35.同情		共感性	3	q12_37.世の中の人		非協調性	9
q12_2.変わった		進取性	4	q12_17.自信		劣等感	10
q12_10.発明		進取性	4	q12_27.つまらない		劣等感	10
q12_36.アイデア		進取性	4	q12_33.間違っ		劣等感	10
q12_14.投げ出さず		持久性	5	q12_8.気になる		神経質	11
q12_20.一生懸命		持久性	5	q12_28.すぐ忘れる		神経質	11
q12_30.粘り強く		持久性	5	q12_38.くよくよ		神経質	11
q12_4.注目		自己顕示性	7	q12_3.軽蔑		虚構性	13
q12_21.目立ちたい		自己顕示性	7	q12_22.嘘をつかない		虚構性	13
q12_23.コンクール		自己顕示性	7	q12_32.悪口		虚構性	13

図表11. 計算に使う10の尺度と30の項目。

「新性格検査」(柳井・柏木・国生(1987))の13尺度130項目より一部抜粋。

「逆転項目」とは、尺度得点の計算にあたって、他と得点の与え方を逆とする項目。

「尺度番号」は、本報告で用いるための、各尺度に与える便宜上の番号を指す。

これらの項目は、いずれも、「はい」、「どちらともいえない」、「いいえ」の3つの選択肢からひとつ選ぶ形で回答を得ている。尺度得点の計算にあたっては、柳井・国生(1987)の「標準化」における尺度得点の計算方法にならい、各項目とも、「はい」のとき2点、「どちらともいえない」のとき1点、「いいえ」のとき0点として、各尺度に含まれる項目の総和を計算、これを各尺度の得点とした。なお、図表9の「逆転項目」の欄に「」が記載されている項目については、得点の与え方が逆になる(「はい」を0点、「どちらともいえない」を1点、「いいえ」を2点)ようにした。

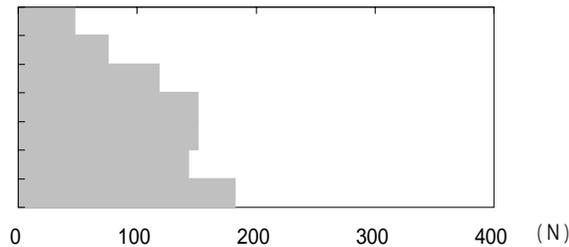
したがって、ここでは、ひとつの尺度あたり3つの項目が対応しているので、各尺度の得点は、最低で0、最大で6をとる値になる。なお、この尺度得点については、もとの問12の全39項目にいずれも欠損のなかった867ケースについてのみ計算した。このため、以降でも、これまで同様、この問12の39項目にてケースワイズ削除後の867ケースのデータを使用する。

各尺度得点の分布形を見ると、図表12-1～10のとおり。

虚構性に関しては、ポアソン分布のような形状となっている。また、非協調性についても、同様に得点の低いほうに偏った分布となっている。この点は、柳井・国生(1987)の報告と一致している。しかし、(ここでは取り扱っていない抑うつ性尺度もろぞいた)他の尺度については、柳井・国生(1987)ではいずれもほぼ正規分布と報告されているが、本調査の結果では、全般的にやや得点の高いほうに偏った分布型が多く見られる。いずれの尺度とも負荷の大きい項目しか使っていないためと思われる。

1. 社会的外向性

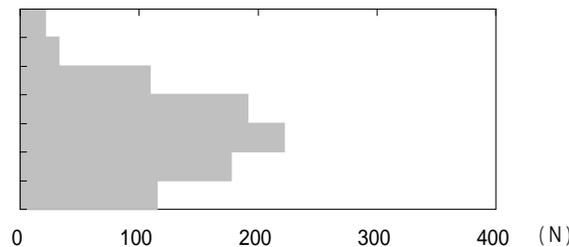
得点	N	%	累積%
0	47	5.4	5.4
1	75	8.7	14.1
2	118	13.6	27.7
3	151	17.4	45.1
4	151	17.4	62.5
5	143	16.5	79.0
6	182	21.0	100.0
全体	867	100.0	



図表12-1. 得点分布(1.「社会的外向性」尺度)

3. 共感性

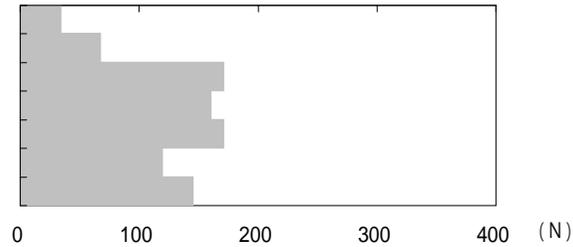
得点	N	%	累積%
0	21	2.4	2.4
1	32	3.7	6.1
2	109	12.6	18.7
3	191	22.0	40.7
4	222	25.6	66.3
5	177	20.4	86.7
6	115	13.3	100.0
全体	867	100.0	



図表12-2. 得点分布(3.「共感性」尺度)

4. 進取性

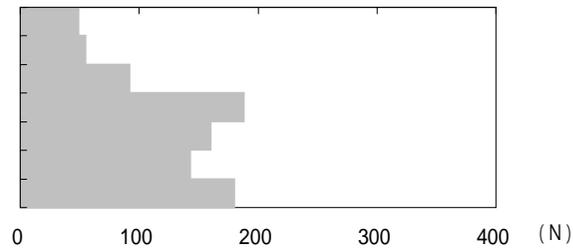
得点	N	%	累積%
0	34	3.9	3.9
1	67	7.7	11.6
2	171	19.7	31.4
3	160	18.5	49.8
4	171	19.7	69.6
5	119	13.7	83.3
6	145	16.7	100.0
全体	867	100.0	



図表12-3. 得点分布 (4. 「進取性」尺度)

5. 持久性

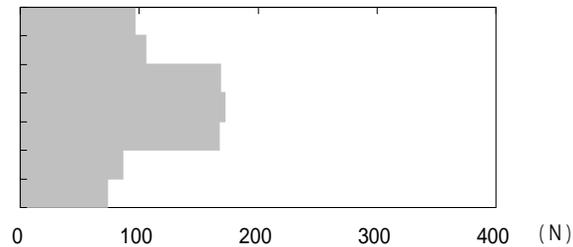
得点	N	%	累積%
0	49	5.7	5.7
1	55	6.3	12.0
2	92	10.6	22.6
3	188	21.7	44.3
4	160	18.5	62.7
5	143	16.5	79.2
6	180	20.8	100.0
全体	867	100.0	



図表12-4. 得点分布 (5. 「持久性」尺度)

7. 自己顕示性

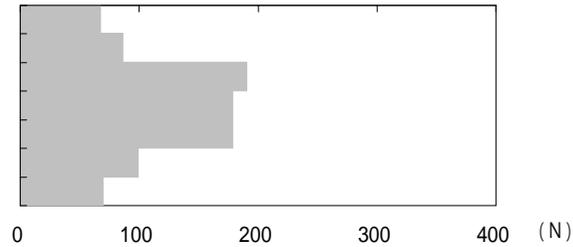
得点	N	%	累積%
0	96	11.1	11.1
1	105	12.1	23.2
2	168	19.4	42.6
3	172	19.8	62.4
4	167	19.3	81.7
5	86	9.9	91.6
6	73	8.4	100.0
全体	867	100.0	



図表12-5. 得点分布 (7. 「自己顕示性」尺度)

8. 攻撃性

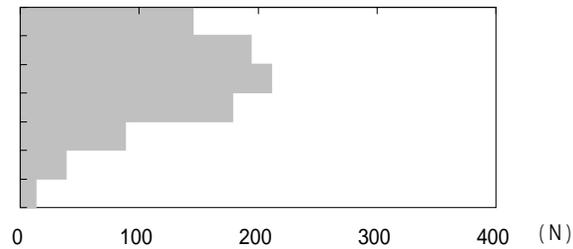
得点	N	%	累積%
0	67	7.7	7.7
1	86	9.9	17.6
2	190	21.9	39.6
3	178	20.5	60.1
4	178	20.5	80.6
5	99	11.4	92.0
6	69	8.0	100.0
全体	867	100.0	



図表12-6. 得点分布 (8. 「攻撃性」尺度)

9. 非協調性

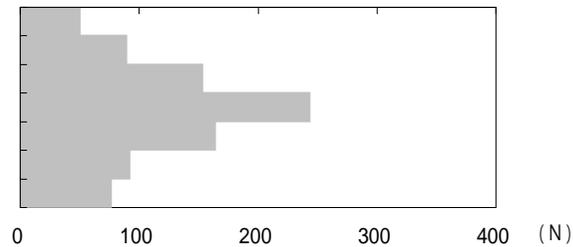
得点	N	%	累積%
0	145	16.7	16.7
1	194	22.4	39.1
2	211	24.3	63.4
3	178	20.5	84.0
4	88	10.1	94.1
5	38	4.4	98.5
6	13	1.5	100.0
全体	867	100.0	



図表12-7. 得点分布 (9. 「非協調性」尺度)

10. 劣等性

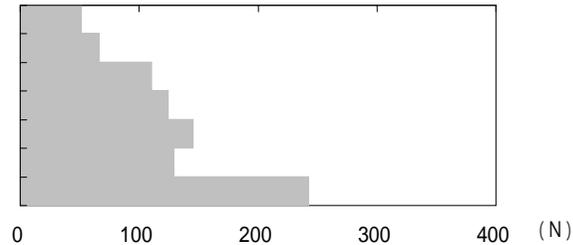
得点	N	%	累積%
0	50	5.8	5.8
1	89	10.3	16.0
2	153	17.6	33.7
3	243	28.0	61.7
4	164	18.9	80.6
5	92	10.6	91.2
6	76	8.8	100.0
全体	867	100.0	



図表12-8. 得点分布 (10. 「劣等性」尺度)

11. 神経質

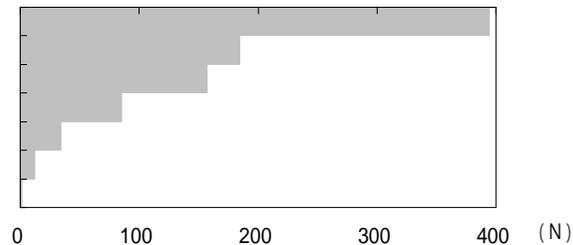
得点	N	%	累積%
0	51	5.9	5.9
1	66	7.6	13.5
2	110	12.7	26.2
3	124	14.3	40.5
4	145	16.7	57.2
5	129	14.9	72.1
6	242	27.9	100.0
全体	867	100.0	



図表12-9. 得点分布 (11. 「神経質」尺度)

13. 虚構性

得点	N	%	累積%
0	394	45.4	45.4
1	184	21.2	66.7
2	157	18.1	84.8
3	85	9.8	94.6
4	34	3.9	98.5
5	12	1.4	99.9
6	1	0.1	100.0
全体	867	100.0	



図表12-10. 得点分布 (13. 「虚構性」尺度)

以上より、各尺度の分布は、全体としてあまり正規分布をしていない。したがって、こうした尺度の得点を群間の比較に用いる場合、正規分布を前提とした処理は適さない。しかし幸い、ここでは、各尺度は「0」～「6」の7と通りの値しかとらない。そこで、これらの尺度値を記述する際には、代表値に要約することは行わず、図表12のように、「0」～「6」の素点ごとの頻度を用いることとする。

また、ある要因により分けられた群間で、一般的性格を比較する際には、各尺度ごとに、群×得点の分割表(クロス表)を作成、同じ対象に同じ調査を繰り返し行う無限母集団に対する推定を考え、分割表の行と列の独立性のカイ二乗検定の結果を利用する。また同時に、各尺度の得点を順序尺度として扱い、両群に同じ母集団を想定できるかどうかを見るため、マン・ホイットニーのU検定の結果も併記する。

なお、こうした検定は、事後的かつ探索的な検討であり、また検出力も考慮しないため、検定結果に絶対的な意味は持たせず、所与のデータ上の群間の分布の差の大きさについての、ひとつの参考指標として用いることとする。

3. インターネットの利用程度の異なる群間での「新性格検査」の尺度得点の比較

ここでは、インターネットの利用程度の違いによる2群を設けて、この群間で、先述のようにして決定した10の尺度得点を比較する。

本来は、インターネットユーザと非インターネットユーザ間で、一般的性格を比較したいところであるが、本調査の対象者は、基本的に、大学のパソコンルームなどにより、だれもがパソコンにてインターネットに接続できる環境にいると考えられ、また、授業などを通じて実際にパソコンを利用しているため、パソコンに限ったとしても、厳密な意味での非インターネットユーザはほぼいないと考えて差し支えないと思われる。

このためここでは、インターネットユーザと非インターネットユーザ間の比較に代え、インターネットの利用の程度の異なる群間での比較を考える。

また、インターネットの利用といったとき、パソコンでの利用か、携帯電話のインターネット接続機能での利用かという点も考慮が必要である。ここでは、携帯電話での利用がより定着していると思われる「メール」ではなく、「ホームページの閲覧やデータ入手など情報収集」のためのインターネットの利用に限定して着目することで、「携帯メール」のみのインターネットユーザを除いたインターネットの利用を考える。

こうした点を踏まえ、「インターネットの利用程度の違い」は、図表13に示す設問への反応により判断することとする。

ここで、「1. ほぼ毎日利用した」あるいは「2. 20日くらい利用した」を選択した人を「ネット利用高」群、「3. 10日くらい利用した」、「4. 数回だけ利用した」、「利用しなかった」のいずれかを選んだ人を「ネット利用低」群として2群に分けることとする。「無回答」を選んだ人は、いずれの群にも属さないものとし、ここでの分析の対象から除くこととする。

各尺度の得点は、問12の一連の質問に欠測のない867名について計算したが、この867名からさらに、問5-3が無回答であった8名を除いた859名分のデータが、ここでの分析対象となる。

問5. あなたは、この1ヶ月の間に、インターネットをどの程度利用しましたか。下記の5-1～5-7の各用途について、それぞれ1つつ、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。

	1	2	3	4	5
利用した	ほぼ毎日	20日くらい	10日くらい	数回だけ	しなかった
5-3. ホームページ閲覧やデータ入手など情報収集	1	2	3	4	5

図表13. インターネットの利用程度の測定に使用する設問。

ここで「1」、「2」を選んだ群と、「3」、「4」、「5」を選んだ群の2群に分け、前者を「ネット利用高」群、後者を「ネット利用低」群とする。

こうして、よりインターネットの利用程度が高いであろう「ネット利用高」群と、それに比べインターネットの利用程度が低いであろう「ネット利用低」群の2群について、各10尺度における尺度得点の度数分布を比較した結果は、図表14-1～10のとおり。

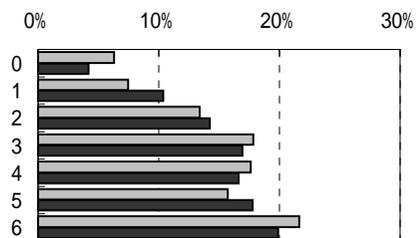
なお、独立性のカイ二乗検定は、ネット利用程度×尺度得点の、2×7の度数表部分に対して計算した(自由度6)。

この結果、「ネット利用高」群、したがってよりインターネットの利用程度が高いであろう群の特徴は下記のとおり。

- ・ 多少違いが目立つのは進取性がやや高いことくらいであり、他はあまり大きくは変わらない($\chi^2=9.799$, $p=0.133$)。

表側:	全体		ネット利用低		ネット利用高	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	47	5	33	6	14	4
1	75	9	39	7	35	10
2	118	14	70	13	48	14
3	151	18	93	18	57	17
4	151	18	92	18	56	17
5	143	17	82	16	60	18
6	182	21	113	22	67	20

%は列%。



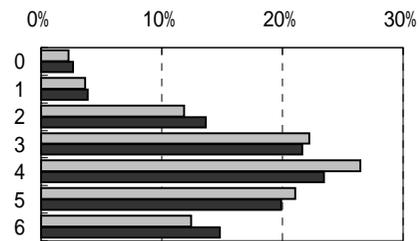
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 4.946
 df= 6
 p= 0.551
 E<5のセル0(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和: ネット利用低 225463.5 (n=522)
 順位和: ネット利用高 143906.5 (n=337)
 Z= -0.287
 p= 0.774

図表14-1. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(1. 社会的外向性)

尺度得点	全体		ネット利用低		ネット利用高	
	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	21	2	12	2	9	3
1	32	4	19	4	13	4
2	109	13	62	12	46	14
3	191	22	116	22	73	22
4	222	26	138	26	79	23
5	177	21	110	21	67	20
6	115	13	65	12	50	15

%は列% .



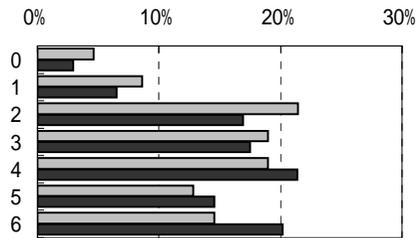
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 2.421$
 $df = 6$
 $p = 0.877$
 $E < 5$ のセル0 (全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和: ネット利用低 224837.5 (n=522)
 順位和: ネット利用高 144532.5 (n=337)
 $Z = -0.109$
 $p = 0.914$

図表14-2. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(3. 共感性)

表側: 尺度得点	全体		ネット利用低		ネット利用高	
	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	34	4	24	5	10	3
1	67	8	45	9	22	7
2	171	20	112	21	57	17
3	160	19	99	19	59	18
4	171	20	99	19	72	21
5	119	14	67	13	49	15
6	145	17	76	15	68	20

%は列% .



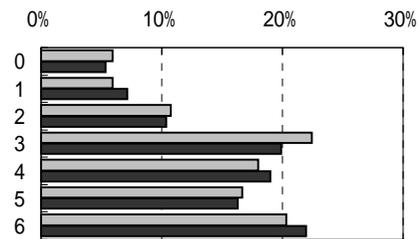
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 9.799$
 $df = 6$
 $p = 0.133$
 $E < 5$ のセル0(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和: ネット利用低 213701.0 (n=522)
 順位和: ネット利用高 155669.0 (n=337)
 $Z = -3.076$
 $p = 0.002$

図表14-3. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(4. 進取性)

尺度得点	全体		ネット利用低		ネット利用高	
	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	49	6	31	6	18	5
1	55	6	31	6	24	7
2	92	11	56	11	35	10
3	188	22	117	22	67	20
4	160	19	94	18	64	19
5	143	17	87	17	55	16
6	180	21	106	20	74	22

%は列% .



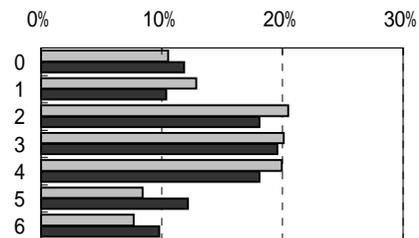
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 1.601$
df = 6
p = 0.953
E < 5のセル0 (全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
順位和: ネット利用低 222805.0 (n=522)
順位和: ネット利用高 146565.0 (n=337)
Z = -0.474
p = 0.636

図表14-4. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(5. 持久性)

尺度得点	全体		ネット利用低		ネット利用高	
	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	96	11	55	11	40	12
1	105	12	67	13	35	10
2	168	20	107	20	61	18
3	172	20	105	20	66	20
4	167	19	104	20	61	18
5	86	10	44	8	41	12
6	73	8	40	8	33	10

%は列% .



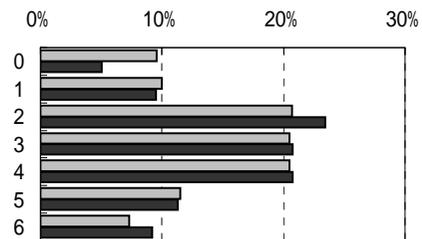
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 6.332$
 $df = 6$
 $p = 0.387$
 $E < 5$ のセル0(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和: ネット利用低 219963.0 (n=522)
 順位和: ネット利用高 149407.0 (n=337)
 $Z = -1.284$
 $p = 0.199$

図表14-5. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(7. 自己顕示性).

表側: 尺度得点	全体		ネット利用低		ネット利用高	
	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	67	8	50	10	17	5
1	86	10	52	10	32	9
2	190	22	108	21	79	23
3	178	21	107	20	70	21
4	178	21	107	20	70	21
5	99	12	60	11	38	11
6	69	8	38	7	31	9

%は列% .



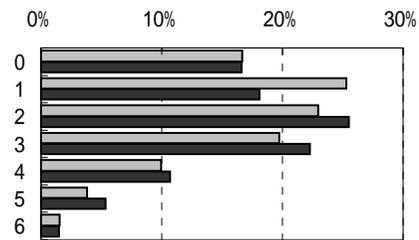
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 7.118$
 $df = 6$
 $p = 0.310$
 $E < 5$ のセル0(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和: ネット利用低 220011.0 (n=522)
 順位和: ネット利用高 149359.0 (n=337)
 $Z = -1.273$
 $p = 0.203$

図表14-6. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(8. 攻撃性).

尺度得点	全体		ネット利用低		ネット利用高	
	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	145	17	87	17	56	17
1	194	23	132	25	61	18
2	211	25	120	23	86	26
3	178	21	103	20	75	22
4	88	10	52	10	36	11
5	38	4	20	4	18	5
6	13	2	8	2	5	1

%は列% .



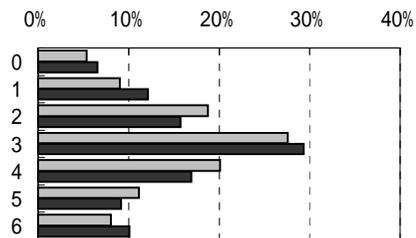
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 7.046$
df = 6
p = 0.317
E < 5のセル0 (全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
順位和: ネット利用低 218856.5 (n=522)
順位和: ネット利用高 150513.5 (n=337)
Z = -1.611
p = 0.107

図表14-7. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(9. 非協調性).

尺度得点	全体		ネット利用低		ネット利用高	
	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	50	6	28	5	22	7
1	89	10	47	9	41	12
2	153	18	98	19	53	16
3	243	28	144	28	99	29
4	164	19	105	20	57	17
5	92	11	58	11	31	9
6	76	9	42	8	34	10

%は列% .



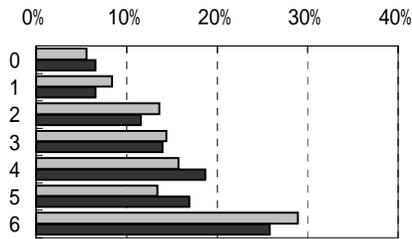
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 6.591$
 $df = 6$
 $p = 0.360$
 $E < 5$ のセル0 (全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和: ネット利用低 227094.0 (n=522)
 順位和: ネット利用高 142276.0 (n=337)
 $Z = -0.756$
 $p = 0.449$

図表14-8. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(10. 劣等感).

尺度得点	全体		ネット利用低		ネット利用高	
	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	51	6	29	6	22	7
1	66	8	44	8	22	7
2	110	13	71	14	39	12
3	124	14	75	14	47	14
4	145	17	82	16	63	19
5	129	15	70	13	57	17
6	242	28	151	29	87	26

%は列% .



独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 5.471$
 $df = 6$
 $p = 0.485$
 $E < 5$ のセル0 (全14セル中)

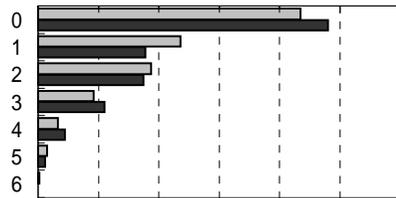
マン・ホイットニーのU検定
 順位和: ネット利用低 223836.5 (n=522)
 順位和: ネット利用高 145533.5 (n=337)
 $Z = -0.179$
 $p = 0.858$

図表14-9. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(11. 神経質).

尺度得点	全体		ネット利用低		ネット利用高	
	N	%	N	%	N	%
全体	859	100	522	100	337	100
0	394	46	227	43	162	48
1	184	21	123	24	60	18
2	157	18	98	19	59	18
3	85	10	48	9	37	11
4	34	4	17	3	15	4
5	12	1	8	2	4	1
6	1	0	1	0	-	-

%は列% .

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



□ ネット利用低
■ ネット利用高

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 6.582
df= 6
p= 0.361
E<5のセル3(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
順位和: ネット利用低 226079.5 (n=522)
順位和: ネット利用高 143290.5 (n=337)
Z= -0.483
p= 0.629

図表14-10. インターネットの利用程度の異なる2群間での尺度得点の比較(13. 虚構性).

4. インターネット調査に対する協力意向の異なる群間での「新性格検査」の尺度得点の比較

次に、インターネット調査に対する協力意向の違いによる2群を設けて、同様に、群間で尺度得点を比較する。

なお、「インターネット調査に対する協力意向の違い」は、図表15に示す設問への反応により判断することとする。
ここでメールアドレスを記入した人を「アドレス記入」群、記入しない人を「アドレス未記入」群として2群に分けることとする。
この設問では、「研究調査」限定ながら、インターネット調査のアンケートモニターへの登録を誘いかける内容となっており、こうした誘い掛けに対してメールアドレスを記入する人たちは、記入しない人たちよりも、潜在的にインターネット調査への協力意向が高いであろうと判断することは、あながちの外れではなかろう。

なお、ここでは、問12の一連の質問に欠測のない1867名分のデータを使う。
なお、アドレスの記入のないものは等しく「アドレス未記入」群とするため、この問については欠測値は定義されない。

今後、このような研究のためのアンケートを、インターネット上でも行う予定です。今回の調査に謝礼はありませんが、インターネット上で行う調査では、抽選ではありますが、謝礼も用意する予定です。
こうしたアンケートに協力しても良いとお考えの方は、下記にあなたのメールアドレスをご記入ください。
なお、ご記入いただいたメールアドレスは、研究調査へのご協力をお願いする以外の目的で使用することはありません。

_____@_____

図表15. インターネット調査に対する協力意向の測定に使用する設問。
ここでメールアドレスを記入した群と、記入しない群の2群に分け、前者を「アドレス記入」群、後者を「アドレス未記入」群とする。

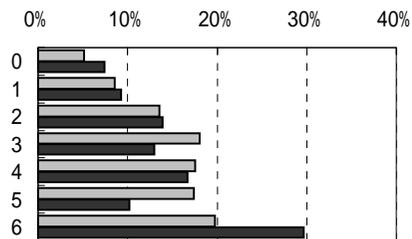
こうして、よりインターネット調査への協力意向が高いであろう「アドレス記入」群と、特にそうした姿勢の見られない「アドレス未記入」群の2群について、各10尺度における尺度得点の度数分布を比較した結果は、図表16-1～10のとおり。
なお、独立性のカイ二乗検定は、アドレス記入有無×尺度得点の、2×7の度数表部分に対して計算した(自由度6)。

この結果、「アドレス記入」群、したがってよりインターネット調査に対して協力意向が高いであろう群の特徴は下記のとおり。

- ・とくに自己顕示性の高さが目立つ($\chi^2=24.196$)。
- ・その他、カイ二乗値が10を超える尺度は、進取性($\chi^2=10.732$)、攻撃性(10.453)、共感性(10.265)、神経質(10.131)だが、いずれもp値はそれほど小さくない。なお、df=6のとき、 $\chi^2=10$ でおおよそ $p=0.125$ 、 $\chi^2=11$ でおおよそ $p=0.088$ 。
- ・次いで、社会的外向性(9.764)が10に近い。 χ^2 値を示す。
- ・残りの5つの尺度については、あまり違いが見られない。

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	47	5	39	5	8	7
1	75	9	65	9	10	9
2	118	14	103	14	15	14
3	151	17	137	18	14	13
4	151	17	133	18	18	17
5	143	16	132	17	11	10
6	182	21	150	20	32	30

%は列% .



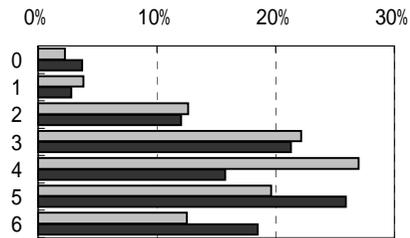
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 9.764$
 $df = 6$
 $p = 0.135$
 $E < 5$ のセル0(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 328081.5 (n=759)
 順位和:アドレス記入 48196.5 (n=108)
 $Z = -0.552$
 $p = 0.581$

図表16-1. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(1. 社会的外向性)

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	21	2	17	2	4	4
1	32	4	29	4	3	3
2	109	13	96	13	13	12
3	191	22	168	22	23	21
4	222	26	205	27	17	16
5	177	20	149	20	28	26
6	115	13	95	13	20	19

%は列%



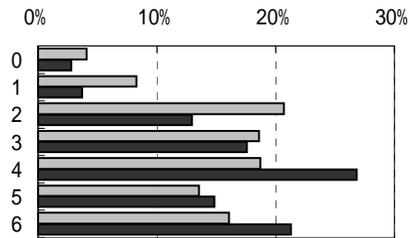
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 10.265$
 $df = 6$
 $p = 0.114$
 $E < 5$ のセル2(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 326095.0 (n=759)
 順位和:アドレス記入 50183.0 (n=108)
 $Z = -1.388$
 $p = 0.165$

図表16-2. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(3. 共感性)

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	34	4	31	4	3	3
1	67	8	63	8	4	4
2	171	20	157	21	14	13
3	160	18	141	19	19	18
4	171	20	142	19	29	27
5	119	14	103	14	16	15
6	145	17	122	16	23	21

%は列% .



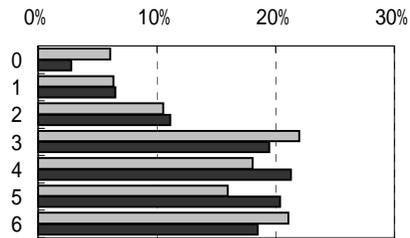
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 10.732$
df = 6
p = 0.097
E < 5のセル1 (全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
順位和: アドレス未記入 322723.0 (n=759)
順位和: アドレス記入 53555.0 (n=108)
Z = -2.786
p = 0.005

図表16-3. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(4. 進取性)

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	49	6	46	6	3	3
1	55	6	48	6	7	6
2	92	11	80	11	12	11
3	188	22	167	22	21	19
4	160	18	137	18	23	21
5	143	16	121	16	22	20
6	180	21	160	21	20	19

%は列%



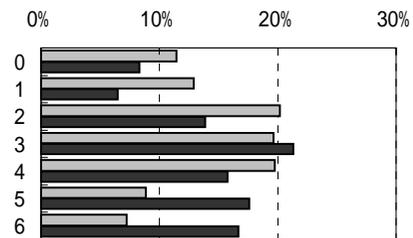
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 4.084$
 $df = 6$
 $p = 0.665$
 $E < 5$ のセル0(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 327972.0 (n=759)
 順位和:アドレス記入 48306.0 (n=108)
 $Z = -0.598$
 $p = 0.550$

図表16-4. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(5. 持久性)

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	96	11	87	11	9	8
1	105	12	98	13	7	6
2	168	19	153	20	15	14
3	172	20	149	20	23	21
4	167	19	150	20	17	16
5	86	10	67	9	19	18
6	73	8	55	7	18	17

%は列% .



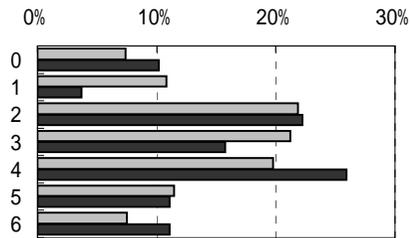
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 24.196
df= 6
p= 0.000
E<5のセル0(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
順位和:アドレス未記入 320178.0 (n=759)
順位和:アドレス記入 56100.0 (n=108)
Z= -3.842
p= 0.000

図表16-5. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(7. 自己顕示性).

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	67	8	56	7	11	10
1	86	10	82	11	4	4
2	190	22	166	22	24	22
3	178	21	161	21	17	16
4	178	21	150	20	28	26
5	99	11	87	11	12	11
6	69	8	57	8	12	11

%は列%



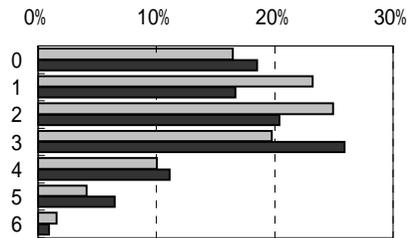
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 10.453$
 $df = 6$
 $p = 0.107$
 $E < 5$ のセル0 (全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 326067.5 (n=759)
 順位和:アドレス記入 50210.5 (n=108)
 $Z = -1.393$
 $p = 0.164$

図表16-6. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(8. 攻撃性).

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	145	17	125	16	20	19
1	194	22	176	23	18	17
2	211	24	189	25	22	20
3	178	21	150	20	28	26
4	88	10	76	10	12	11
5	38	4	31	4	7	6
6	13	1	12	2	1	1

%は列% .



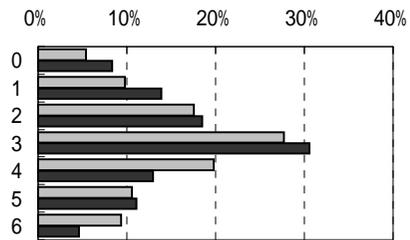
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 6.204$
df = 6
p = 0.401
E < 5のセル2 (全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
順位和: アドレス未記入 326777.5 (n=759)
順位和: アドレス記入 49500.5 (n=108)
Z = -1.102
p = 0.271

図表16-7. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(9. 非協調性).

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	50	6	41	5	9	8
1	89	10	74	10	15	14
2	153	18	133	18	20	19
3	243	28	210	28	33	31
4	164	19	150	20	14	13
5	92	11	80	11	12	11
6	76	9	71	9	5	5

%は列% .



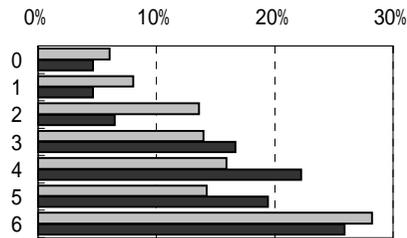
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 8.069$
 $df = 6$
 $p = 0.233$
 $E < 5$ のセル0(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 334903.0 (n=759)
 順位和:アドレス記入 41375.0 (n=108)
 $Z = -2.301$
 $p = 0.021$

図表16-8. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(10. 劣等感).

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	51	6	46	6	5	5
1	66	8	61	8	5	5
2	110	13	103	14	7	6
3	124	14	106	14	18	17
4	145	17	121	16	24	22
5	129	15	108	14	21	19
6	242	28	214	28	28	26

%は列%



□ アドレス未記入
■ アドレス記入

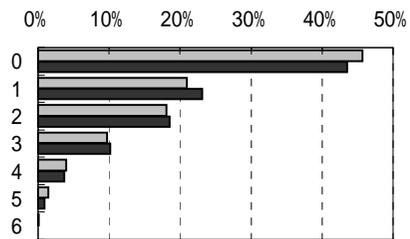
独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 10.131$
 $df = 6$
 $p = 0.119$
 $E < 5$ のセル0(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 326448.0 (n=759)
 順位和:アドレス記入 49830.0 (n=108)
 $Z = -1.237$
 $p = 0.216$

図表16-9. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(11. 神経質).

尺度得点	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
	N	%	N	%	N	%
全体	867	100	759	100	108	100
0	394	45	347	46	47	44
1	184	21	159	21	25	23
2	157	18	137	18	20	19
3	85	10	74	10	11	10
4	34	4	30	4	4	4
5	12	1	11	1	1	1
6	1	0	1	0	-	-

%は列% .



独立性の χ^2 検定
 $\chi^2 = 0.690$
 $df = 6$
 $p = 0.995$
 $E < 5$ のセル4 (全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 328924.5 (n=759)
 順位和:アドレス記入 47353.5 (n=108)
 $Z = -0.210$
 $p = 0.834$

図表16-10. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較(13. 虚構性).

5. インターネット調査に対する協力意向の異なる群間での「新性格検査」の尺度得点の比較【インターネット利用程度別】

ところで、そもそもインターネット調査への協力意向は、インターネットを利用できる環境とスキルの有無のみではなく、実際にインターネットを普段使っているかどうかにより異なることは十分予想される。そこで、「ネット利用高」群の中でのアドレス記入有無別の尺度得点、「ネット利用低」群の中でのアドレス記入有無の尺度得点というように、インターネットの利用程度別にそれぞれ、アドレス記入有無ごとの各尺度得点の分布を見た結果は図表17-1～10。なお、ここでも、インターネットの利用程度の群分けに使用している問5-3に欠測のある8名分の回答を除外した、計859名分のデータを使用する。

この結果、アドレス記入有無での違いが、ネット利用程度の高低で異なった傾向を示すものは下記。

- ・ 社会的外向性は、「ネット利用低」群かつ「アドレス記入」群において尺度得点が「6」の人数が多い(33人中14人)ことが目立つ。
- ・ 劣等感は、「ネット利用低」群でのみ「アドレス記入」群の得点が低い方向に偏っている傾向が見られる。
- ・ 攻撃性は、若干ながら、「ネット利用高」群でのみ「アドレス記入」群の得点が高いほうに偏っている傾向が見られる。
- ・ 神経質は、若干ながら、「ネット利用低」群でのみ「アドレス記入」群の得点が相対的に低いほうに偏っている傾向が見られる。

また、自己顕示性については、インターネットの利用程度で層化した結果、かえって、アドレスの記入有無別の尺度得点の分布の違いがばやける結果となっている。これは、先に867名全体で見たときのアドレス記入の有無と自己顕示性の関連には、多少、インターネット利用程度による寄与があり、ここでインターネット利用程度で層化したため、この要因による効果が調整された結果と思われる。

ところで、ここでは、「ネット利用低」群を非インターネットユーザ、「ネット利用高」群をインターネットユーザに代わるものとして考えている。インターネット上で自ら調査モニターに登録する人は、当然、インターネットユーザであることになる。そう考えると、先に、そうしたインターネット利用程度で層化せず、859名全体でアドレス記入の有無、すなわちインターネット調査モニターへの登録意向別の尺度得点の分布を見たが、本来は、「ネット利用高」群においてのみアドレス記入を見ればよいのかもしれない。

しかし、先述のとおり、「ネット利用低」群も、程度はともかくも、厳密には非インターネットユーザとは考えにくく、また実際、ここで「ネット利用低」とした群にも、実際にインターネット調査の対象者となるべく、メールアドレスを記入しているので、やはりこの群も、インターネットユーザではある。

図表17にある一連の結果を見ると、「ネット利用低」群におけるほうが、全般的に、アドレスを記入する人とならない人の一般的性格の乖離が大きいようで、アドレス記入無による尺度得点の分布の違いは、「ネット利用低」群のほうが際立ってくるケースが見られる。ただし、「ネット利用低」かつ「アドレス記入」群のサイズはn=33しかないため、これが理由で分布がばらついているだけかも知れない点、注意が必要である。

社会的外向性・共感性・劣等感・神経質。

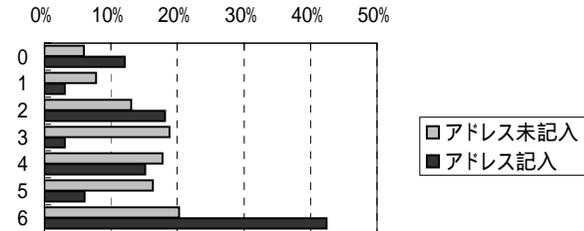
なお、「ネット利用高」群に限った場合でも、こうした層化をしない場合と同様に、アドレス記入の有無で得点の分布の違いが見られる尺度は下記。

自己顕示性・進取性・攻撃性

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	33	6	29	6	4	12
1	39	7	38	8	1	3
2	70	13	64	13	6	18
3	93	18	92	19	1	3
4	92	18	87	18	5	15
5	82	16	80	16	2	6
6	113	22	99	20	14	42

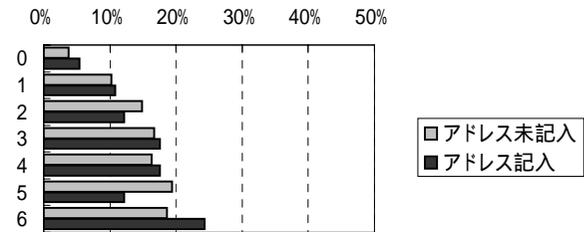
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	14	4	10	4	4	5
1	35	10	27	10	8	11
2	48	14	39	15	9	12
3	57	17	44	17	13	18
4	56	17	43	16	13	18
5	60	18	51	19	9	12
6	67	20	49	19	18	24

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 16.959
 df= 6
 p= 0.009
 E<5のセル3(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 126879.5 (n=489)
 順位和:アドレス記入 9623.5 (n= 33)
 Z= -1.202
 p= 0.229

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 3.374
 df= 6
 p= 0.761
 E<5のセル1(全14セル中)

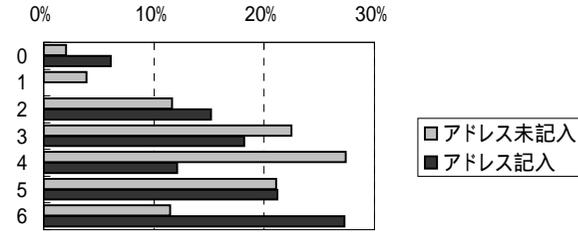
マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 44358.5 (n=263)
 順位和:アドレス記入 12594.5 (n= 74)
 Z= -0.121
 p= 0.904

図表17-1. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(1. 社会的外向性)

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	12	2	10	2	2	6
1	19	4	19	4	-	-
2	62	12	57	12	5	15
3	116	22	110	22	6	18
4	138	26	134	27	4	12
5	110	21	103	21	7	21
6	65	12	56	11	9	27

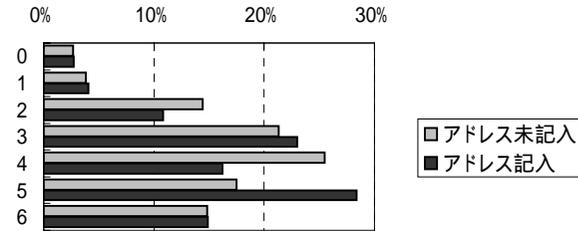
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	9	3	7	3	2	3
1	13	4	10	4	3	4
2	46	14	38	14	8	11
3	73	22	56	21	17	23
4	79	23	67	25	12	16
5	67	20	46	17	21	28
6	50	15	39	15	11	15

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 12.972
 df= 6
 p= 0.043
 E<5のセル4(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 12692.0 (n=489)
 順位和:アドレス記入 9576.0 (n= 33)
 Z= -1.153
 p= 0.249

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 6.201
 df= 6
 p= 0.401
 E<5のセル2(全14セル中)

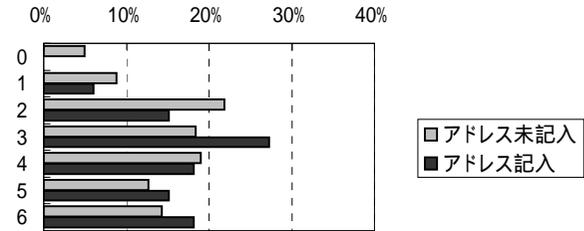
マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 43802.5 (n=263)
 順位和:アドレス記入 13150.5 (n= 74)
 Z= -0.887
 p= 0.375

図表17-2. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(3. 共感性)

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	24	5	24	5	-	-
1	45	9	43	9	2	6
2	112	21	107	22	5	15
3	99	19	90	18	9	27
4	99	19	93	19	6	18
5	67	13	62	13	5	15
6	76	15	70	14	6	18

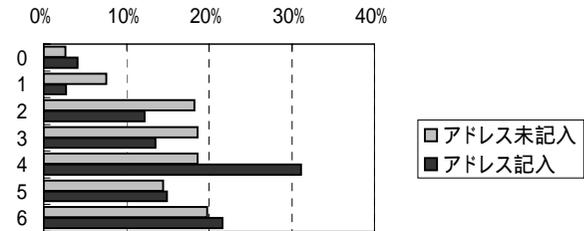
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	10	3	7	3	3	4
1	22	7	20	8	2	3
2	57	17	48	18	9	12
3	59	18	49	19	10	14
4	72	21	49	19	23	31
5	49	15	38	14	11	15
6	68	20	52	20	16	22

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 4.298
 df= 6
 p= 0.636
 E<5のセル4(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 126750.5 (n=489)
 順位和:アドレス記入 9752.5 (n= 33)
 Z= -1.359
 p= 0.174

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 8.927
 df= 6
 p= 0.178
 E<5のセル2(全14セル中)

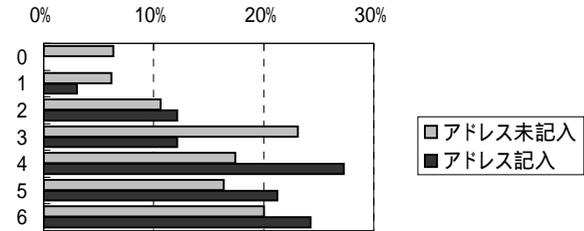
マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 43360.0 (n=263)
 順位和:アドレス記入 13593.0 (n= 74)
 Z= -1.492
 p= 0.136

図表17-3. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(4. 進取性)

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	31	6	31	6	-	-
1	31	6	30	6	1	3
2	56	11	52	11	4	12
3	117	22	113	23	4	12
4	94	18	85	17	9	27
5	87	17	80	16	7	21
6	106	20	98	20	8	24

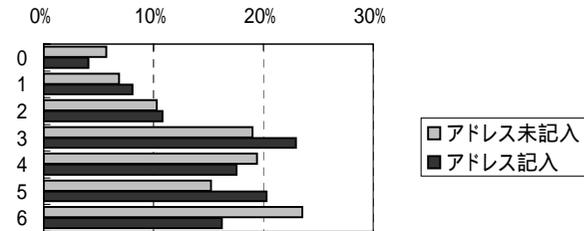
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	18	5	15	6	3	4
1	24	7	18	7	6	8
2	35	10	27	10	8	11
3	67	20	50	19	17	23
4	64	19	51	19	13	18
5	55	16	40	15	15	20
6	74	22	62	24	12	16

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2= 6.707$
 df= 6
 p= 0.349
 E<5のセル3(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 126476.5 (n=489)
 順位和:アドレス記入 10026.5 (n= 33)
 Z= -1.693
 p= 0.090

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2= 3.328$
 df= 6
 p= 0.767
 E<5のセル1(全14セル中)

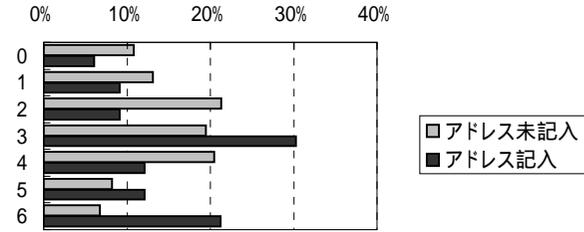
マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 44934.0 (n=263)
 順位和:アドレス記入 12019.0 (n= 74)
 Z= -0.668
 p= 0.504

図表17-4. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(5. 持久性)

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	55	11	53	11	2	6
1	67	13	64	13	3	9
2	107	20	104	21	3	9
3	105	20	95	19	10	30
4	104	20	100	20	4	12
5	44	8	40	8	4	12
6	40	8	33	7	7	21

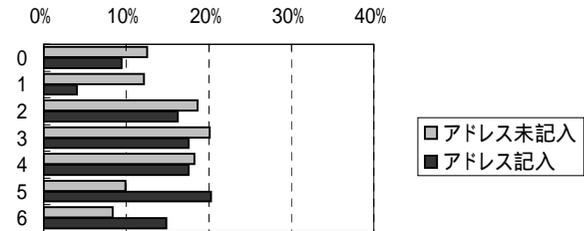
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	40	12	33	13	7	9
1	35	10	32	12	3	4
2	61	18	49	19	12	16
3	66	20	53	20	13	18
4	61	18	48	18	13	18
5	41	12	26	10	15	20
6	33	10	22	8	11	15

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 15.194
 df= 6
 p= 0.019
 E<5のセル4(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 125926.5 (n=489)
 順位和:アドレス記入 10576.5 (n= 33)
 Z= -2.356
 p= 0.018

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 12.132
 df= 6
 p= 0.059
 E<5のセル0(全14セル中)

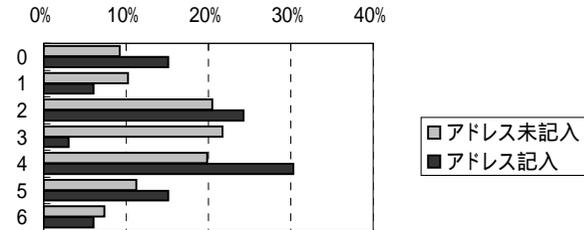
マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 42340.0 (n=263)
 順位和:アドレス記入 14613.0 (n= 74)
 Z= -2.882
 p= 0.004

図表17-5. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(7. 自己顕示性).

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	50	10	45	9	5	15
1	52	10	50	10	2	6
2	108	21	100	20	8	24
3	107	20	106	22	1	3
4	107	20	97	20	10	30
5	60	11	55	11	5	15
6	38	7	36	7	2	6

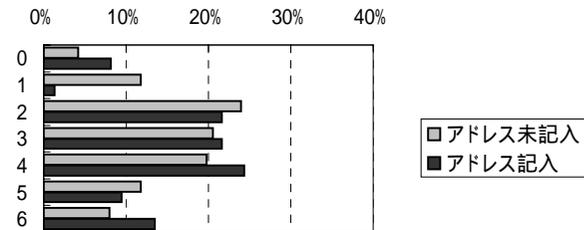
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	17	5	11	4	6	8
1	32	9	31	12	1	1
2	79	23	63	24	16	22
3	70	21	54	21	16	22
4	70	21	52	20	18	24
5	38	11	31	12	7	9
6	31	9	21	8	10	14

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 9.273
 df= 6
 p= 0.159
 E<5のセル4(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 127717.0 (n=489)
 順位和:アドレス記入 8786.0 (n= 33)
 Z= -0.189
 p= 0.850

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 11.327
 df= 6
 p= 0.079
 E<5のセル1(全14セル中)

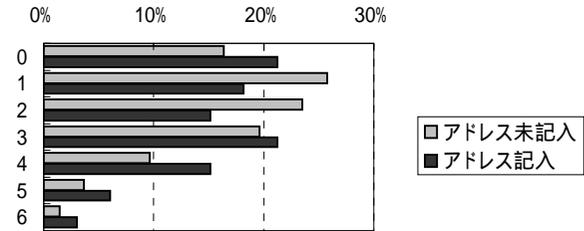
マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 43390.0 (n=263)
 順位和:アドレス記入 13563.0 (n= 74)
 Z= -1.453
 p= 0.146

図表17-6. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(8. 攻撃性).

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	87	17	80	16	7	21
1	132	25	126	26	6	18
2	120	23	115	24	5	15
3	103	20	96	20	7	21
4	52	10	47	10	5	15
5	20	4	18	4	2	6
6	8	2	7	1	1	3

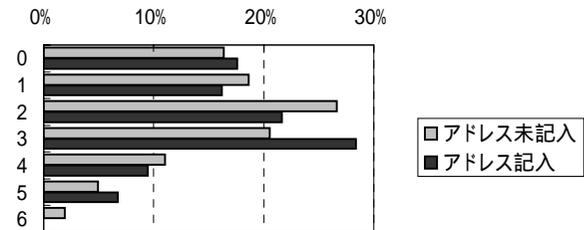
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	56	17	43	16	13	18
1	61	18	49	19	12	16
2	86	26	70	27	16	22
3	75	22	54	21	21	28
4	36	11	29	11	7	9
5	18	5	13	5	5	7
6	5	1	5	2	-	-

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 4.045
 df= 6
 p= 0.671
 E<5のセル3(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 127269.5 (n=489)
 順位和:アドレス記入 9233.5 (n= 33)
 Z= -0.736
 p= 0.462

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 4.295
 df= 6
 p= 0.637
 E<5のセル3(全14セル中)

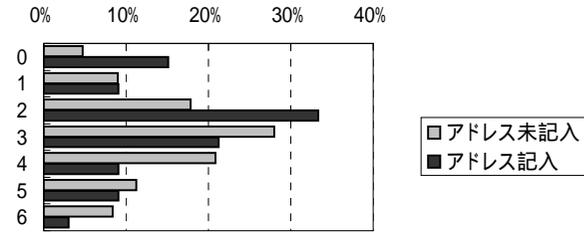
マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 44216.5 (n=263)
 順位和:アドレス記入 12736.5 (n= 74)
 Z= -0.318
 p= 0.751

図表17-7. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(9. 非協調性).

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	28	5	23	5	5	15
1	47	9	44	9	3	9
2	98	19	87	18	11	33
3	144	28	137	28	7	21
4	105	20	102	21	3	9
5	58	11	55	11	3	9
6	42	8	41	8	1	3

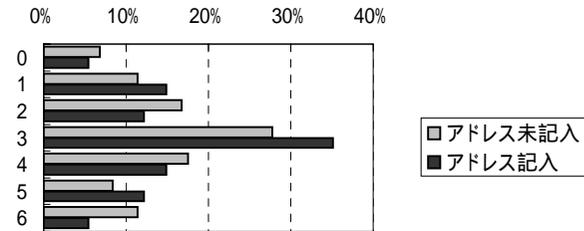
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	22	7	18	7	4	5
1	41	12	30	11	11	15
2	53	16	44	17	9	12
3	99	29	73	28	26	35
4	57	17	46	17	11	15
5	31	9	22	8	9	12
6	34	10	30	11	4	5

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 14.147
 df= 6
 p= 0.028
 E<5のセル4(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 130220.5 (n=489)
 順位和:アドレス記入 6282.5 (n= 33)
 Z= -2.854
 p= 0.004

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 5.789
 df= 6
 p= 0.447
 E<5のセル1(全14セル中)

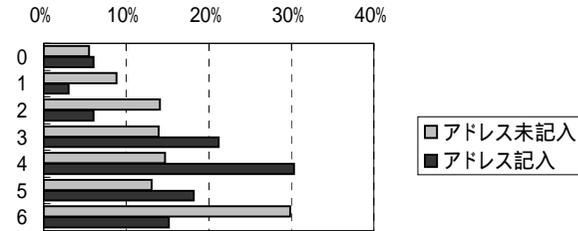
マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 44750.0 (n=263)
 順位和:アドレス記入 12203.0 (n= 74)
 Z= -0.417
 p= 0.677

図表17-8. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(10. 劣等感).

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	29	6	27	6	2	6
1	44	8	43	9	1	3
2	71	14	69	14	2	6
3	75	14	68	14	7	21
4	82	16	72	15	10	30
5	70	13	64	13	6	18
6	151	29	146	30	5	15

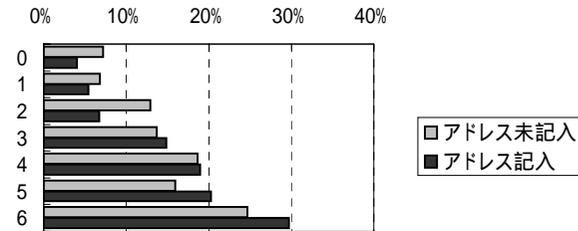
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	22	7	19	7	3	4
1	22	7	18	7	4	5
2	39	12	34	13	5	7
3	47	14	36	14	11	15
4	63	19	49	19	14	19
5	57	17	42	16	15	20
6	87	26	65	25	22	30

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 11.541
 df= 6
 p= 0.073
 E<5のセル5(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 128070.5 (n=489)
 順位和:アドレス記入 8432.5 (n= 33)
 Z= -0.239
 p= 0.811

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 4.227
 df= 6
 p= 0.646
 E<5のセル2(全14セル中)

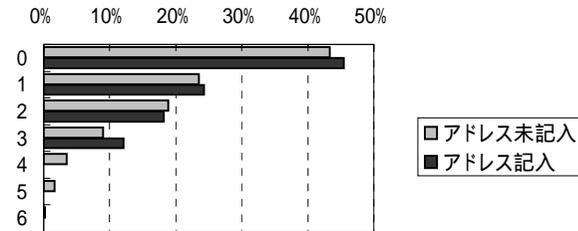
マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 43221.5 (n=263)
 順位和:アドレス記入 13731.5 (n= 74)
 Z= -1.684
 p= 0.092

図表17-9. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(11. 神経質).

「ネット利用低」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	522	100	489	100	33	100
0	227	43	212	43	15	45
1	123	24	115	24	8	24
2	98	19	92	19	6	18
3	48	9	44	9	4	12
4	17	3	17	3	-	-
5	8	2	8	2	-	-
6	1	0	1	0	-	-

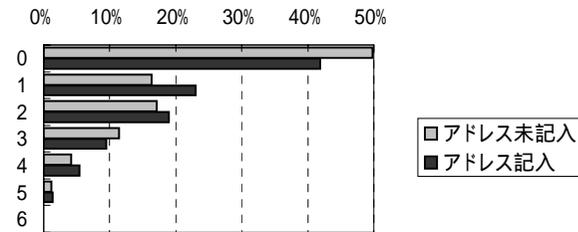
%は列%.



「ネット利用高」群

表側:	全体		アドレス未記入		アドレス記入	
尺度得点	N	%	N	%	N	%
全体	337	100	263	100	74	100
0	162	48	131	50	31	42
1	60	18	43	16	17	23
2	59	18	45	17	14	19
3	37	11	30	11	7	9
4	15	4	11	4	4	5
5	4	1	3	1	1	1
6	-	-	-	-	-	-

%は列%.



「ネット利用低」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 2.127
 df= 6
 p= 0.908
 E<5のセル5(全14セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 128194.0 (n=489)
 順位和:アドレス記入 8309.0 (n= 33)
 Z= -0.403
 p= 0.687

「ネット利用高」群

独立性の χ^2 検定
 $\chi^2=$ 2.699
 df= 5
 p= 0.746
 E<5のセル3(全12セル中)

マン・ホイットニーのU検定
 順位和:アドレス未記入 43886.5 (n=263)
 順位和:アドレス記入 13066.5 (n= 74)
 Z= -0.809
 p= 0.419

「ネット利用高」群においては、「アドレス未記入」および「アドレス記入」の両群とも、尺度得点が「6」のセルの値は「0」であるため、虚構性についての独立性の χ^2 検定は、尺度得点は「0」～「5」のみとした、 2×6 の分割表(自由度5)について検定を行なった。

図表17-10. インターネットリサーチへの心的関与の異なる2群間での尺度得点の比較【インターネット利用程度別】(13. 虚構性).

6.まとめ

以上、「3」ではインターネットの利用程度別、「4」ではインターネット調査モニターへの参加意向(=アドレスの記入有無)別、そして、「5」ではインターネットの利用程度別にインターネット調査への参加意向別、それぞれについて、尺度得点の分布を見た。

インターネット調査を従来の標本調査法の諸手法と並べて考えるとき、インターネット調査は、対象者とデバイスという双方において大きな差異がある。ここでは、このうちの、対象者のほうに着眼している。

インターネット調査の回答者と、本来調査したい対象者との間には、図表18のような複数の差異が考えられる。

- a) 本来母集団としたい調査ターゲット。
- b) その中のインターネットユーザ。
- c) その中のインターネット調査モニター。
- d) その中の調査対象者。
- e) その中の回答者。

図表18. インターネット調査の回答者。

「c」「d」に関しては、従来どおりの標本抽出が考えられ、また、「d」「e」は、デバイス特有の部分もあるにせよ、従来の調査におけるノンレスポンスの問題との共通点も少なくないと思われる。

しかし、「a」「b」「c」という過程は、現実的には、どのようにしても代表性を担保する手続き = 無作為抽出は行なわれ得ない。標本調査法における代表性は、その手続き以外に担保し得ないものであり、こうした理由から、インターネット調査における「代表性」の議論は、少なくとも現状では、本質的に成り立ち得ない。

こうした認識の下、ここでは「a」「b」としてインターネットの利用程度別の一般的性格の比較、「b」「c」としてインターネット調査への協力意向別の一般的性格の比較を、「経験則」のための、いち数值例として行なったものである。

この結果、本調査においては、まず、インターネットユーザ(インターネットを一定以上利用する群)の特徴として、そうでない人に比べて、

進取性が高い(平凡より変わったことをしたい、発明をしてみたい、新しいアイデアを考えるのが好き)。

また、インターネット調査モニターへの登録意向を示す人の特徴として、そうでない人に比べて、

進取性が高い(平凡より変わったことをしたい、発明をしてみたい、新しいアイデアを考えるのが好き)。

自己顕示性が高い(注目の的になりたい、目立ちたい、コンクールに入賞したい)。

攻撃性が若干高い(とやかく言われると言いつ返す、意見の合わない人を批判したくなる、失礼には黙っていない)。

といった点がうかがわれた。

このうち、進取性については、アドレス記入の有無というよりむしろ、インターネットの利用程度によって異なると思われるため、

インターネットユーザの特徴として進取性が高い、これに加え、

インターネット調査モニターへの登録意向を示す人の特徴として、自己顕示性が高く、攻撃性も若干だが高い。

ということが、本調査の問12の結果から伺える結論と考える。

引き続き所与のデータにて検討すべきこととして、以下のようなことが考えられる。

- ・インターネットユーザ内で、インターネット調査への協力意向と、その他の調査への協力意向は違うのか、違うならどう違うか。
- ・インターネットユーザかどうか、あるいはインターネット調査モニターに登録しているかどうかといった異なる対象者間に生じる回答傾向の差異を、よく判別できる設問群はないか。ある場合、どういった設問が該当しそうか。

[以上]

6. 文献

この報告のなかで触れた資料は下記のとおり。

柳井晴夫・柏木繁男・国生理枝子(1987)．プロマックス回転法による新性格検査の作成について()．心理学研究, 第58巻第3号, 158-165．

柳井晴夫・国生理枝子(1987)．新性格検査の作成について, 人事試験研究, 124, 2-11．

柳井晴夫・繁榊算男・前川眞一・市川雅教(1990)．因子分析 その理論と方法．朝倉出版．

[以上]